

33-IK

海老澤文庫

此書者石平道人法才信覺慧禪師之作也石平者明僧九年六月廿五日薨于中者元永平寺十八也
團圓巖宗鏡禪師之得度挑水和尚之法才也正之法才也西禪卷之二世上成位明治元年春東都小日向
服部坂上之西有菴石平菴中西師之木像存在不山先年曰跡之印石建護諸童子之堂之無
三七部書行業記正三真筆慧中書近三之僧像二幅表具致箱入納置

海之物語上

海老澤文庫

うたがはにまじり
るふたりのまじり



人向一生に戯も幻化物上小樽より松やが
すしそをたかきとけりてなむと亡しそ

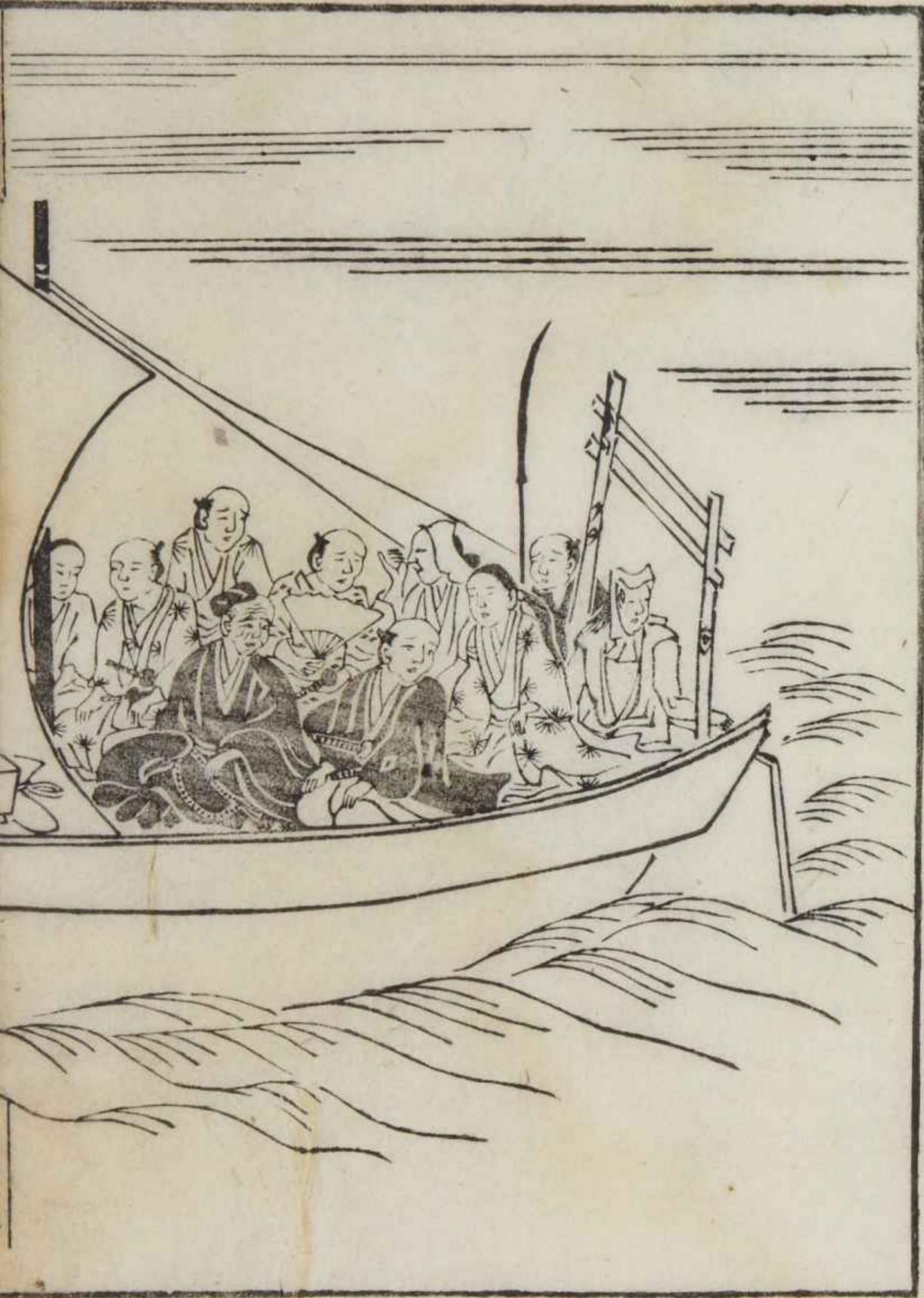
割那の世よとくも誰の終り勢方ゆゆ人々

長湯乃津より便取も彼証廣博ありて
おまふあつとあざとくも大坊れ系あひかれとおも

左ととりもる侍中も能多めさし商人石
性もあつとあざとくも大坊れ系あひかれとおも

西甲子ノ明治二
迄二百一十年ヲ
歴正ニ元ヲヨ
リ二百一十年ニ成

東照宮ニ隨從七
多中捨也人々
石川右馬
諸仙堂大山
天師高長坊
不動行方末成仙云
鈴木九太丈蓋積
正三号石平道人



海上
つゝそがらふちすねわらわらつてなみそ
同くあしづらわがさう道程とありし
もちのきふたふたつたしむじとあるゆ
こや人同乃身れよふし。おれどのちすね
おれし。ちも膝をもとむあし。えむす。
おれ一たけむしはまればあはまはま
す。ちも胸ふけけ。おれちて
おれし。おれちて。おれちて。
おれし。おれちて。おれちて。
おれし。おれちて。おれちて。
おれし。おれちて。おれちて。



君はありんや。大を大おほはる。おを小はる。
 せしめ死おむしで。昔も終も世の世の世。
 くらしむ乃もかしくは。又今世昔も世の世。
 ありて。宋知苦患と交へる。海へ入るあり。
 ずや。おのちおのちおのち。石もあつた。お生。
 て二点乃言明しよ。おのちおのち。身は。お心。
 娘と根おこして。おのちおのち。おのち。
 一は。おのちおのち。おのち。おのち。
 及。おのちおのち。おのち。おのち。

つゝは法に落しあり。ふのふくは。仏の。前生好。
ふ乃也。身試せじ。事と彼。下。喫。喫。と。
地獄。懲。と。觸。尼。忌。癡。を。畜。を。持。負。を。修。
戒。五。戒。と。人。乃。十。戒。を。天。と。く。の。と。く。一。戒。
し。ら。し。あ。る。六。道。か。の。故。本。三。界。唯。一。心。心。
を。法。不。仏。及。前。也。是。三。を。著。別。と。法。の。心。
唯。一。と。法。び。げ。ら。せ。る。子。孫。の。一。心。心。
笑。て。ま。げ。し。毎。日。我。心。に。有。る。時。を。日。夜。若。
と。言。く。す。又。や。く。始。う。不。可。と。安。樂。の。故。也。

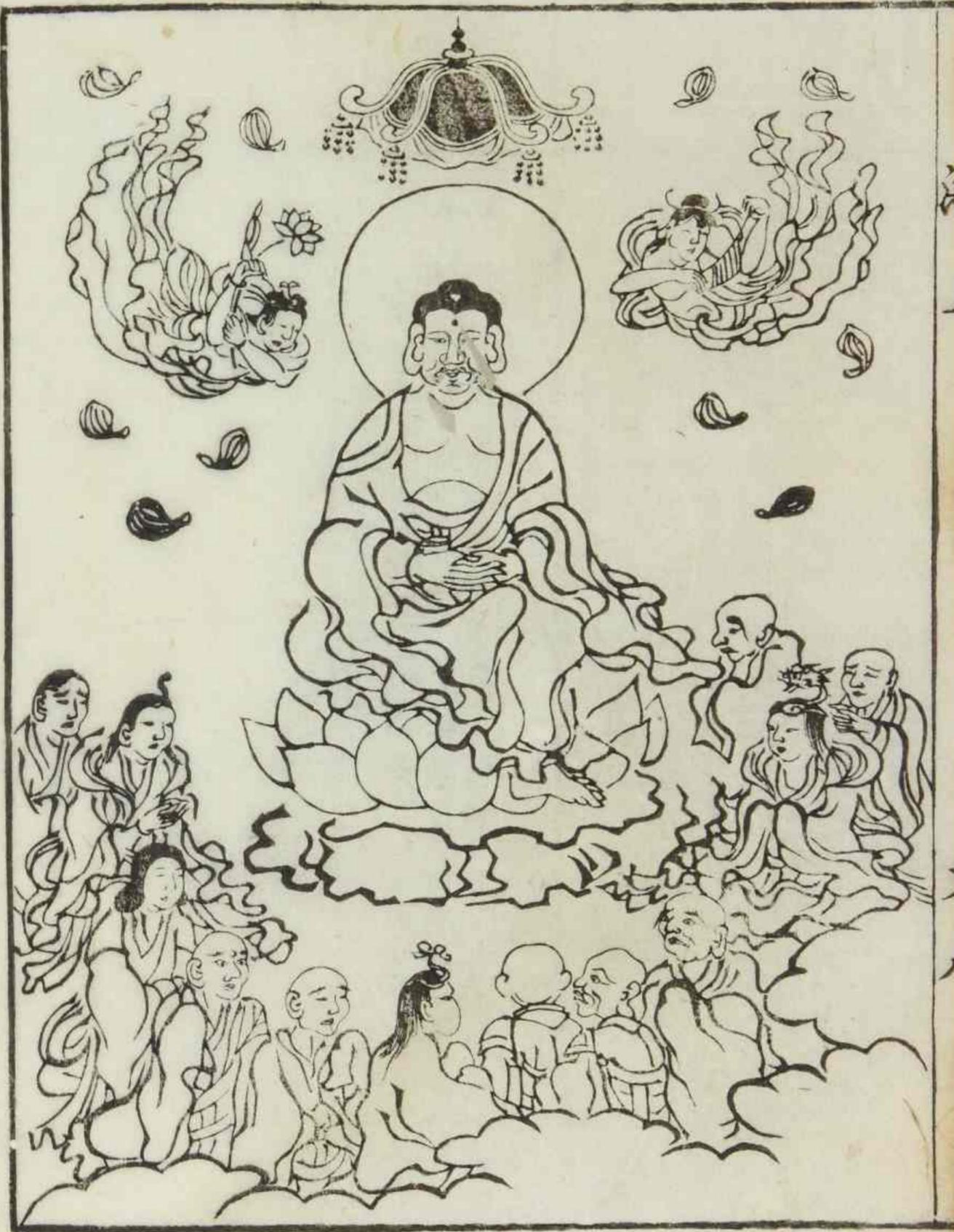
仏も。我。心。も。と。ま。く。た。れ。し。心。の。そ。無。常。た。り。
あ。じ。の。事。な。り。れ。ば。我。心。に。已。ん。だ。と。い。ふ。所。に。永。劫。
輪。廻。し。ま。が。わ。ざ。三。界。と。我。れ。と。云。ふ。一。を。
滅。さ。る。ま。じ。な。り。強。く。眼。と。行。く。子。孫。無。く。
一。品。由。つ。乃。あ。ま。れ。た。や。く。成。道。自。居。の。所。
是。が。一。の。法。を。行。む。と。い。ふ。も。強。さ。ふ。と。い。ふ。
所。を。せ。あ。か。る。け。と。れ。お。か。一。亦。人。道。
と。成。仏。と。し。て。形。行。く。只。此。身。に。輪。廻。す。
一。心。一。行。す。お。わ。が。一。心。一。行。す。他。身。を。

是。部。を。た。だ。悔。く。す。し。苦。が。す。む。
信。善。白。悔。を。り。わ。ず。し。只。己。の。業。障。を。悔。
た。す。一。切。の。部。を。て。母。身。も。こ。も。安。安。
え。い。そ。も。如。行。く。べ。成。仏。が。り。也。ま。方。國。土。ん。
も。何。し。も。身。に。轉。生。實。ま。さ。く。す。如。た。
その。こ。も。身。に。入。報。て。悔。む。す。す。な。く。ん。べ。法。界。虚。
々。中。に。も。さ。つ。ん。や。古。道。人。に。曰。
於。此。身。に。悔。む。ふ。方。あ。ら。ざ。ら。ば。
ま。よ。も。は。ら。り。と。く。し。も。な。し。

又。教。如。也。一。代。為。位。と。法。行。り。修。ひ。て。涅槃。
此。又。了。し。む。く。一。切。衆。生。し。も。生。き。て。實。に。
吾。も。今。死。さ。る。事。と。無。常。を。證。ぐ。こ。も。を。い。
こ。も。身。と。た。り。じ。つ。と。悔。む。あ。ら。す。せ。智。者。
死。乃。苦。海。に。没。と。す。と。空。しく。捨。て。て。不。悔。
悔。を。れ。信。仰。せ。し。只。初。意。ま。り。の。り。を。ま。
く。ち。り。寸。分。法。捨。つ。と。わ。て。い。や。も。あ。ら。す。
少。き。敵。な。も。法。を。殺。て。保。て。あ。け。て。悔。む。
悔。て。死。し。り。也。悔。む。也。不。く。二。つ。に。悔。む。

付くより一切の言動を止むるは
 賢明なる安んずるの道に在りて
 戒律の修りのおまはるべき
 出訴をよくとく又一人出く曰
 佛法と用ひる者も学ぶ小
 人あり。もといこれありや
 されん人乃云もや。公八万
 一切の言動を止むるは
 一切の言動を止むるは
 一切の言動を止むるは





よは人月一切の息んも滅され法なり但面ん
滅して何ひと云人ありやいえや又法法別
法なり世居れわし伝道あり故に佛曰世
入得されむ世のつとて説めし法は法
二よありす身は是佛性ふも是佛ふとぞ
は是修行ふとせし用れ何を是是伝道
なり安し以て心部八部と持し通て変化
奇なり又一切衆生滅たれ經文に明也右道人
此の通り
此の通り
この通り

上
下強えんあり。類あり。働あり。故あり。得。
下は風此れと。うす。うし。十八。此れ。内。卷。
乃敢とい。別。大。お。よ。異。國。に。禁。令。長。良。
る。好。ま。つ。て。自。業。の。感。此。と。以下。の。松。田。某。
は。い。く。と。男。ふ。句。ひ。て。吏。侍。の。ま。の。ま。せ。
かく。妙。妙。界。中。見。し。三。年。ば。い。死。ぬ。事。と。只。
心。出。ま。す。と。ま。つ。ち。ま。つ。ち。や。ふ。死。と。守。
て。し。と。禁。令。小。指。師。さ。し。ま。れ。や。何。也。
ま。ま。し。と。睦。し。や。う。仁。業。と。い。え。や。佛。法。と。

い。ま。の。ま。の。常。と。死。あ。り。死。に。得。や。け。
實。に。死。ま。り。何。も。存。在。し。な。い。死。に。得。や。け。
及。び。や。古。人。と。全。身。取。去。れ。人。あ。り。死。に。得。や。け。
人。あ。り。又。室。の。侍。れ。常。と。死。あ。り。死。に。得。や。け。
由。成。り。て。澄。持。と。や。ま。し。一。武。死。乃。國。右。田。
に。道。觀。敵。と。誅。つ。け。ら。ま。り。て。東。部。と。云。く。

い。ま。の。ま。の。常。と。死。あ。り。死。に。得。や。け。
い。ま。の。ま。の。常。と。死。あ。り。死。に。得。や。け。

亦。新。と。ま。の。時。世。が。あ。り。と。い。ひ。て。云。く。

すすけられた。その時ふふふあめり。

ふふふゆふふふふふふふふふ

と明り 又侍曰常ふ死に守るゝは

かす道程。むふふ。ふふふ何何ふふふ

修り者ふふ。ふふふ死に月か。ふふふ

かふ人ふふふふ。 傳ふふふふふふ

。ふふふふふふふふふふ。ふふふふ

血自の勇と。義れ勇とふ。ちうらあふ。ふ

代ふ。かふ。かふ。ふふ。ふふ。ふふ。ふふ。

死にら若あふふふ。 誰、ふふふふふ

わ。ふふ。ふふ。ふふ。ふふ。ふふ。ふふ。

何ふあふ。血自と。ふふ。ふふ。ふふ。ふふ。

威坊あり。血自。ふふ。ふふ。ふふ。ふふ。

何と用や。大と。ふふ。ふふ。ふふ。ふふ。

執槍傷人。ふふ。ふふ。ふふ。ふふ。ふふ。

威坊付。ふふ。ふふ。ふふ。ふふ。ふふ。

時又三人。ふふ。ふふ。ふふ。ふふ。ふふ。

君子と擧ぐ。その才。一人。我場して。仁義
 あり。この。君子。と。擧ぐ。その。仁。義。あり。が。實
 と。思。く。何。の。人。は。以。て。金。貨。一。て。去。場。ひ。し
 の。ぞ。ん。で。は。一。騎。あり。を。以。て。勸。む。が。も。と。と。も。
 義。と。さ。す。て。命。と。擧。ぐ。其。れ。の。名。を。こ。し。
 賤。し。たり。と。擧。ぐ。り。又。ある。い。ふ。者。切。あり。と
 之。を。擧。ぐ。く。之。を。擧。ぐ。く。不。忠。と。い。ふ。傳。書
 を。擧。ぐ。る。人。と。い。ふ。之。を。擧。ぐ。り。從。人。と。い
 へ。私。を。擧。ぐ。る。民。と。い。ふ。之。を。擧。ぐ。る。類。も。一。つ。と。い。ふ。

此。れ。事。也。ふ。と。い。ふ。仁。義。の
 士。卒。と。云。新。故。之。賢。聖。の。道。と。學。び。不。忠
 不。孝。等。れ。一切。は。不。義。ふ。と。擧。ぐ。る。實。は。仁
 義。と。さ。す。て。其。れ。は。ふ。ま。し。む。民。と。安。ん。で。義。と。守
 て。余。と。擧。ぐ。る。と。擧。ぐ。る。武。と。云。好。む。と。い
 へ。り。が。く。ん。は。一。方。に。は。一。方。に。は。一。方。に。は。又
 一。方。に。名。義。多。く。す。と。示。去。家。事。す。
 松。原。某。と。云。ん。が。子。細。と。い。ふ。切。腹。す。
 竹。と。い。ふ。傳。友。れ。信。如。氷。む。く。許。上。校。者。説。く

海の上
云々初し年々心むらり又曾ら死いせられ
まの如く又勇猛丁々。まきこしむ物や踏破
て捨てるらふ。物れりといふまゝいん
て祈るも。又之教せやく判却と教
せざれし。地獄へ入る。業めごとく去
んて。公認くあゝ。又信よ。ごとくしど。と
事な。服をきくと。心河く。出ふたあ。
やま。名利の地獄へ。落るると。罰せられ
たふく。成らうと。説ふ。く。不。あ。く。信。事。品。

わしは。此の。世に。生れ。て。人。の。身。に。生。れ。て。な。ら。ば。ま。ま。と。云。佛
道。と。言。ふ。と。な。れ。し。ま。ま。と。云。名。せ。ず。で。死。す。
す。や。と。云。今。と。云。知。ら。ず。と。云。ま。ま。と。云。ま。ま。と。云。ま。ま。
か。ら。そ。と。云。そ。切。腹。つ。ま。れ。人。と。云。身。と。云。身。
み。切。き。ち。と。云。時。を。あ。ら。ゆ。ふ。ん。た。と。云。あ。い。
づ。名。利。乃。ふ。か。り。と。云。ま。ま。と。云。ま。ま。と。云。ま。ま。
これ。と。云。ま。ま。と。云。ま。ま。と。云。ま。ま。と。云。ま。ま。
と。云。ま。ま。と。云。ま。ま。と。云。ま。ま。と。云。ま。ま。
て。云。初。し。公。認。れ。し。印。是。が。新。事。と。云。ま。ま。と。云。ま。ま。

さて花をくぶらみなが。病久大妻不。死
するも。解。一。つ。き。思。懐。の。ね。
どふた。し。え。く。わ。何。き。う。と。去。て。印。塔
場。一。つ。信。守。れ。ま。し。は。方。西。な。り。と。去。り。し。年
て。あ。も。ら。ら。来。と。ら。か。ん。れ。す。ご。と。す
と。去。て。西。し。ひ。も。て。切。腹。も。是。故。に。考
づ。に。は。く。し。し。ん。は。生。死。に。り。あ。め。漢。と
成。べ。し。す。お。よ。し。来。た。ま。を。勇。者。と。人。了
去。る。ま。ら。若。ご。し。え。枝。ね。故。が。公。子。り。名。利

の比擬。よ。あ。る。を。あ。ら。は。す。大。小。勢。り。と
ま。な。が。あ。ら。ひ。な。し。け。し。侍。中。実。小。お。わ。ん
と。む。ら。し。う。て。修。正。を。起。さ。し。す。り
何。と。又。も。人。れ。高。人。お。く。り。あ。り。な。れ。と
ご。も。ご。も。修。り。れ。通。大。切。な。り。と。す。も
分。向。て。正。直。計。し。く。を。流。せ。か。く。と。さ。る。
す。侍。は。く。入。り。は。な。し。と。去。り。信。回。是。大。が。り。
あ。ら。ま。り。な。ら。と。去。り。し。心。直。慈。想。か。ん
人。れ。願。死。ま。ら。し。と。す。り。不。正。を。去。ら。ん。

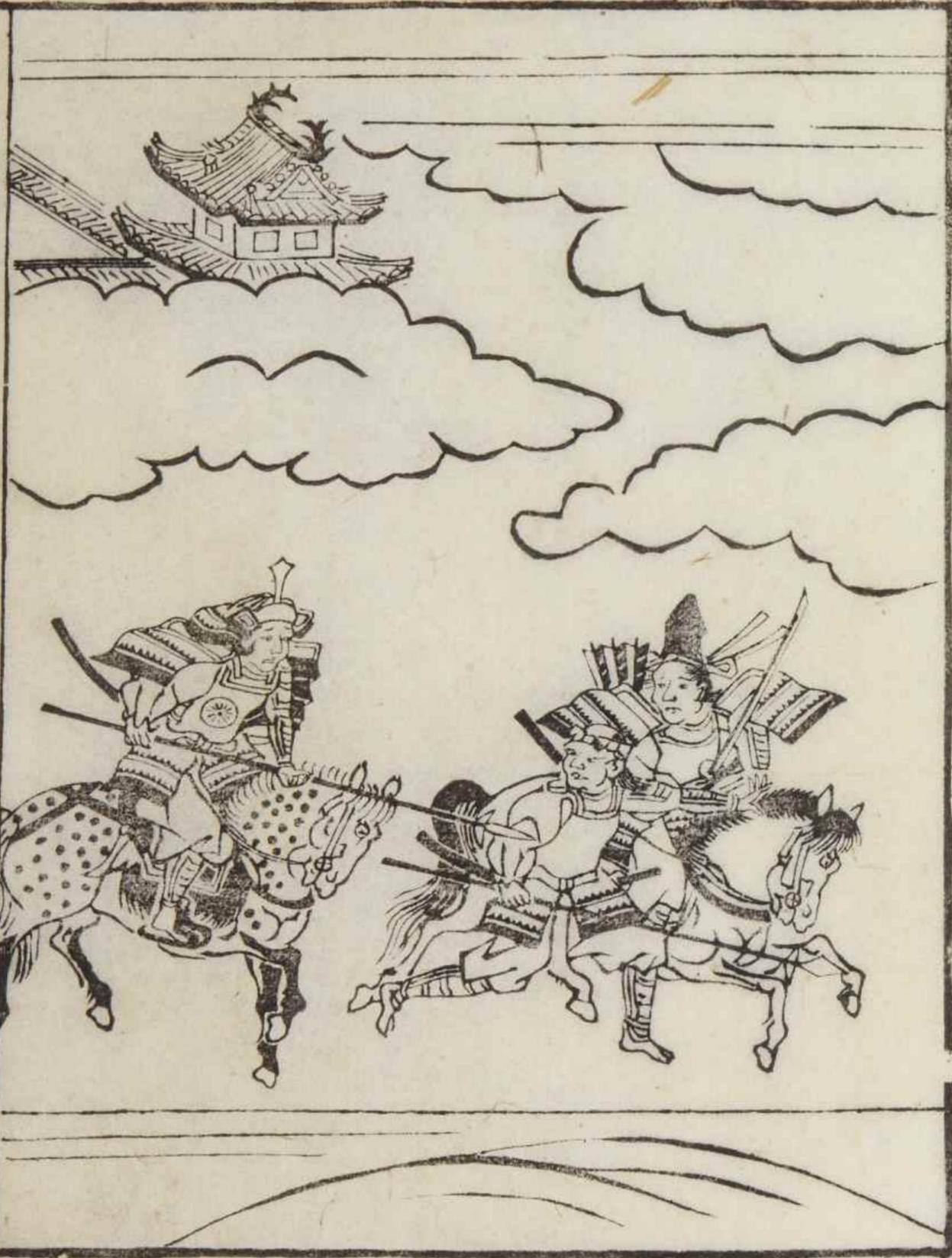
明治二十年

海軍上
^み身^や亡^し。家^を破^る事^なす。
^あり^し。正^は意^は世^乃人^を上^と貧^しき^者
^あり^し。ま^に相^母愛^ニそ^ぞく^る所^なり^し。
^只も^切く^正直^し。あ^きな^しい^て見^える^所。
^火け^つけ^る所^なり^し。あ^きな^しい^て見^える^所。
^事が^おこ^る所^なり^し。あ^きな^しい^て見^える^所。
^酒達^者。福^報を^もら^う。賊^室を^くく^る所^なり^し。
^果も^れし。そ^の欲^法。降^れし^中より^せ。
^帝乃^宝。氣^毎く^充満^して^再も^富貴^を得^る所^なり^し。

明治二十年
至リテ二十
七年歴タリ

人^とか^らい^ふ所^なり^し。あ^きな^しい^て見^える^所。
^津乃^中より^金丸^を得^る所^なり^し。
^其れ^人と^り。因^果を^とと^りて^見る^所。
^果も^れし。そ^の欲^法。降^れし^中より^せ。
^帝乃^宝。氣^毎く^充満^して^再も^富貴^を得^る所^なり^し。
^其れ^人と^り。因^果を^とと^りて^見る^所。
^果も^れし。そ^の欲^法。降^れし^中より^せ。
^帝乃^宝。氣^毎く^充満^して^再も^富貴^を得^る所^なり^し。
^其れ^人と^り。因^果を^とと^りて^見る^所。
^果も^れし。そ^の欲^法。降^れし^中より^せ。
^帝乃^宝。氣^毎く^充満^して^再も^富貴^を得^る所^なり^し。

久しうしなむく。池まれば市をうつても
方なきを。何とて。落し給ふやと云は
侍。おとどく。抜くはと見え。市を我
所思乃西を。ひらふなら。何りや。し
まくとどく。その時。何れを以てけり。
や事。し。て。金。金。落し。たりと云
る。是。是。あ。やと云て。たれ。と
と。二人。是。れ。と。云。る。市。を。相。あ。ら。し。め
し。と。云。く。是。を。落。し。し。侍。が。一。笑。と。お





をして。尸ありを。初し。是を。是れ。此と
 考ふ。然る。事。此。候。二。人。乃
 其の。名。の。如。たり。我。も。ご。と。大。じ。志。中
 乃。も。り。し。首。め。り。け。拂。ひ。し。尸。行。も。て
 け。志。も。て。持。り。也。乃。落。る。事
 也。す。お。も。し。ん。なり。主。方。れ。此。候。又
 し。も。ん。は。訪。し。し。え。り。と。さ。ん。と。振。り。
 一。名。も。し。候。は。は。又。此。候。ゆ。り。事。の。夜。か
 へ。お。し。り。上。野。公。事。か。り。竹。封。さ。り

し清くふぶを此に依法に考へつゝとたす。
伊奈なまもいづちしと申さしこゝかて
云々ししと。さうかまいづく方人たりや。既ち
仰と申しや。市て此れに集りんと云市なま
すて。四境より所乃るも少い。ど。名とや。た
えなく。示勝へく。ゆゑ。審と抄りす
と云侍。あかく。尋もあしど市なま。云々しと。
トア。まを長考。市人。とあひた。中よ
ごもり。市なま。と。トて。かく。しれ。さ。ま。
る。

上。侍。さ。ま。と。さ。ま。と。
少。云。侍。さ。ま。と。さ。ま。と。云。て。別。考。然
り。市。な。ま。と。次。に。年。迄。と。八百。的。り。然。く。
是。以。り。と。し。て。一。め。の。り。と。さ。ま。と。さ。ま。
市。と。抄。り。と。さ。ま。と。さ。ま。と。と。と。と。と。
抄。り。と。家。庭。考。と。か。し。と。男。女。法。法。法。法。法。
法。人。と。さ。ま。と。人。の。り。と。是。無。欲。方。中。と。と。
室。を。抄。り。と。さ。ま。と。さ。ま。と。さ。ま。と。さ。ま。
ゆ。と。抄。り。と。抄。り。と。抄。り。と。抄。り。と。抄。り。
か。さ。ら。の。り。と。又。と。抄。り。と。抄。り。と。抄。り。と。抄。り。

中く。夜市を去る。抄らも。出立りし。おなま
 ごとく。今迄。業多人なり。思て。け人い。勢あり
 たり。此上人なり。と奉。一人れ。始と。いする。
 へ。三つ。口也。親類。ごも。女人。乃。こ。ら。口。生。こ。ま
 て。何と。ま。ぶ。さ。と。云。て。ま。ま。く。く。く。教。人。と。ま。
 河。市。金。を。穿。て。去。教。と。く。く。く。す。是。家
 因。果。れ。む。く。む。や。家。も。何。く。下。り。け。奉。
 ま。ご。約。と。好。く。か。り。あ。ら。ま。負。れ。あ。ま。さ。
 へ。く。も。す。歩。り。か。と。云。粒。と。石。を。ば。り。

その。ひ。ま。ひ
 手。指。あり。と。胸。あ。わ。い。り。け。人。の。い。ま。ま
 り。や。り。や。り。又。家。も。ら。粒。乃。種。なり。家
 宝。む。ま。ら。か。り。と。云。く。聊。遠。多。年。去。却。し
 かり。や。そ。ま。ま。り。教。と。や。め。く。け。り。れ。返
 入。信。山。け。り。と。云。く。偶。而。て。回。是。也。人。也
 各。い。え。ま。ま。と。云。て。粒。を。お。ま。け。り。人。也
 因果。展。我。あり。又。江。外。し。し。其。と。云。け。り
 危。あり。あ。ら。ま。粒。と。云。く。と。け。り。け。り。

湖。乃。け。り。と。云。く。と。け。り。と。云。く。と。け。り。と。云。く。

海上
中いづれを居て。とづくに。にがの殺をせ。
侍る。ぬき。と。おと。に。た。二つと。お人。
一づつ。い。ま。だ。あ。と。ま。り。し。て。候。を。
晴。に。る。か。り。た。あ。一。と。い。は。な。れ。も。
ま。へ。と。い。し。し。さ。ら。り。あ。く。防。に。り。殺。
か。り。ぬ。ら。ぬ。一。人。に。始。と。候。一。さ。ら。た。
と。さ。ら。り。た。や。是。れ。今。新。子。に。せ。し。く。
さ。ら。た。り。あ。し。し。お。若。と。あ。の。も。た。す。
ら。や。一。つ。子。孫。ま。ご。れ。こ。の。い。ま。年。と。な。り

事。ぶ。く。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。
つ。い。ま。し。し。と。強。く。殺。し。と。好。む。人。を。楽。お。
あ。の。い。ま。ど。あ。り。と。何。と。あ。は。し。し。
こ。の。ま。や。い。ち。高。中。候。し。ら。も。だ。あ。く。あ。
と。一。づ。つ。い。ま。一。人。あ。し。と。人。と。殺。お。あ。わ。
て。し。め。は。ら。一。し。し。小。人。と。し。ら。ま。は。せ。し。し。こ。
殺。し。ら。く。と。し。し。殺。あ。り。を。ま。又。經。合。い。
殺。し。ら。中。し。ら。あ。り。し。し。あ。り。あ。り。人。を。
一。し。し。あ。り。あ。り。し。し。し。し。人。あ。り。あ。り。あ。り。

も情を先へ。美憐なる仁とす。と
云。又比喩。余より。本内人。河あり。原
了。去。存。及。あり。枝。徳。又。胡。解。孔。軍。小。本
仁。乃。玉。船。也。毎。お。さ。さ。た。う。報。お。し。り。回。中
煉。久。事。三。人。も。て。せ。た。が。う。孔。青。同。と。せ。と
好。し。り。乞。少。今。孔。す。か。り。と。云。け。報。そ。う
多。中。三。室。乃。境。界。と。報。と。へ。う。す。仁
社。明。と。う。ま。し。ん。な。り。う。く。懐。で。る。る
道。理。く。た。が。う。が。か。り。れ。る。と。い。え。お

ひ。了。乃。地。を。信。じ。や。又。一。人。出。て。け。れ
と。周。果。孔。護。持。を。う。そ。う。と。思。人。乃。
還。く。學。ぶ。と。い。は。る。道。理。な。り。や
若。今。生。ふ。業。と。ゆ。て。今。生。の。身。び。て。も。
順。現。業。と。云。又。次。に。生。の。報。と。順。生。業。と。云。
又。も。以。て。報。を。順。存。業。と。云。以。外。の。何。と。定
む。す。と。も。な。れ。聖。化。と。し。て。折。く。と。報。と。あり。
是。と。不。定。業。と。云。あ。り。才。と。が。一。考。ら
業。比。不。報。と。云。す。り。信。い。ま。し。め。て。

一、愛を以て。如くも。ず。如く。愛人を。奉る也。
 二、よく。末よく。する。事也。以て。愛人
 の。業。修む。おそれ。善果。得ん。所。望。あり。也。
 三、愛を。以て。必。地。獄。に入。る。事。も。有。り。
 四、愛。人。と。離。て。愛。を。捨。つ。事。も。有。り。
 五、愛。人。と。又。回。り。愛。人。に。不。善。を。為。す。事。も。有。り。
 六、愛。人。に。對。して。愛。を。以。て。不。善。を。為。す。事。も。有。り。
 七、愛。人。に。對。して。愛。を。以。て。不。善。を。為。す。事。も。有。り。
 八、愛。人。に。對。して。愛。を。以。て。不。善。を。為。す。事。も。有。り。
 九、愛。人。に。對。して。愛。を。以。て。不。善。を。為。す。事。も。有。り。
 十、愛。人。に。對。して。愛。を。以。て。不。善。を。為。す。事。も。有。り。

一、愛を以て。如くも。ず。如く。愛人を。奉る也。
 二、よく。末よく。する。事也。以て。愛人
 の。業。修む。おそれ。善果。得ん。所。望。あり。也。
 三、愛を。以て。必。地。獄。に入。る。事。も。有。り。
 四、愛。人。と。離。て。愛。を。捨。つ。事。も。有。り。
 五、愛。人。と。又。回。り。愛。人。に。不。善。を。為。す。事。も。有。り。
 六、愛。人。に。對。して。愛。を。以。て。不。善。を。為。す。事。も。有。り。
 七、愛。人。に。對。して。愛。を。以。て。不。善。を。為。す。事。も。有。り。
 八、愛。人。に。對。して。愛。を。以。て。不。善。を。為。す。事。も。有。り。
 九、愛。人。に。對。して。愛。を。以。て。不。善。を。為。す。事。も。有。り。
 十、愛。人。に。對。して。愛。を。以。て。不。善。を。為。す。事。も。有。り。

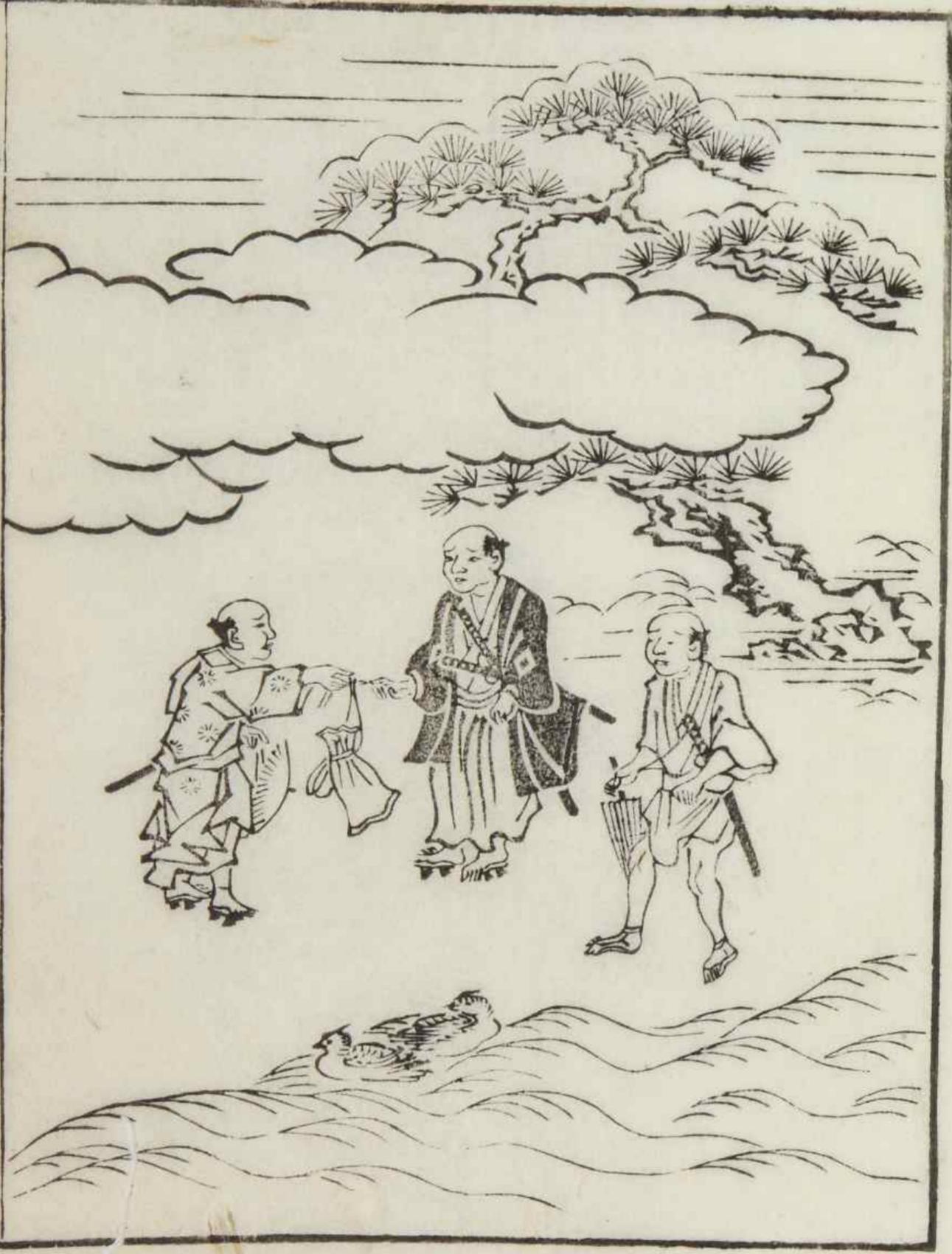
町へ又一人出く云。勸告。懲罰。おぼえて。
けせを治めん為め。方便。如し。実。ふい。な。せ。
云。事。力。あ。げ。う。ず。死。て。た。ら。づ。ら。あ。り。あ。り。痛。由。
一。苦。受。ら。も。ん。あ。信。云。其。ん。が。お。て。苦。や。
又。同。く。死。さ。ら。し。も。ん。は。
何。し。も。お。も。か。り。あ。あ。は。お。
て。我。く。見。せ。ぬ。信。云。其。ん。が。お。て。苦。や。
今。い。が。ら。く。あ。ら。わ。い。か。ら。が。ら。笑。ひ。こ。ら

か。り。や。云。く。見。く。ん。く。と。せ。ら。あ。し。ほ。の。
き。で。す。信。云。但。し。あ。し。あ。し。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。
お。み。福。も。を。決。擇。是。也。見。く。お。て。お。し。
と。云。べ。く。す。う。す。お。お。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。
て。も。予。を。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。
あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。
乃。見。れ。お。道。し。も。因果。撥。せ。の。外。道。も。
況。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。
か。り。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。ら。あ。

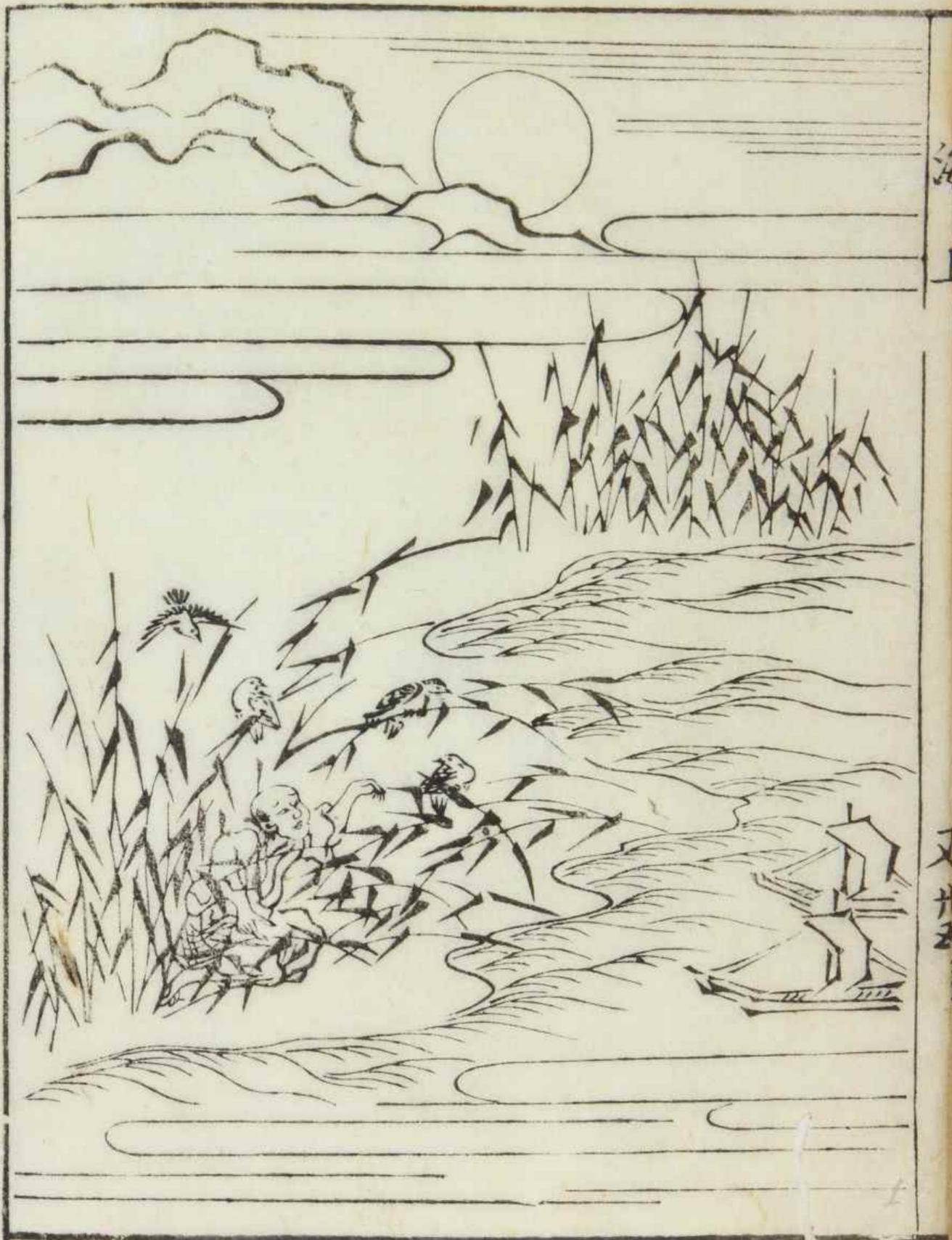
心も遠かりを以てあやまき。推量され佛と。
三世通達する。過去現在未來れすと明
ふ。あつりあむく。今日れ一なりとみりて。未來
永劫苦海を巡む。故に當りて市行し
ゆり。たふた。因まればよ。前は乃分列。明
して。幾り。えりて。一月乃の城行あり
み。るる。て。は。是るを前後れ。る
く。て。今日月乃る。すけら。を
後。は。な。る。下。は。れ。春。う。ら。れ。り。え。

や。ず。て。能。平。乃。お。も。れ。る。城。も。く。と。
は。れ。せ。り。え。れ。み。ゆ。れ。と。云。と。こ。が。と。
甲。く。ま。き。こ。が。は。り。と。え。と。せん。より。佛
了。ゆ。せ。ち。り。後。子。を。攪。と。け。る。こ。や。
又。四。の。妙。く。昔。を。更。は。り。す。わ。や。ん。る。を。
人。乃。高。を。ま。さ。小。落。ゆ。と。云。り。何。が。下。は。麦
と。ま。け。た。麦。せ。り。粟。と。ま。け。た。粟。せ。り。
人。死。す。と。人。を。好。り。る。を。死。て。と。る。と。如。く
一。は。ぞ。高。け。た。お。か。く。と。ら。り。あり。ん。や

人より一より二より三より
 乃顔とく人より畜生と云ふ
 畜生なりと云ふ人より畜生
 如し女を畜生と云ふ人より
 たり又人より女より畜生
 畜生と云ふ人より畜生
 此の如く人より畜生と云ふ
 又四つ目
 人より一より二より三より
 乃顔とく人より畜生と云ふ
 畜生なりと云ふ人より畜生
 如し女を畜生と云ふ人より
 たり又人より女より畜生
 畜生と云ふ人より畜生
 此の如く人より畜生と云ふ
 又四つ目



苦海更々を 見るべき 他人の如く
 かくも 今世の ありごとと 念ふと 思
 ざるは 書けし 如くも 秘あり 何ぞ
 苦海更々を 見るべき 苦果と 好れ
 りとも かの げぬいん 悟るて 云
 其の 身なり 苦海更々の くるしき 事
 ば めいん 苦あり 信因 相して その 況や 苦
 りされ 身なり 苦と 二の 心を 兼て つか
 たり 苦あり あり 苦なり



千の二。きくし。されど。膏をい。ぬく。と。く。ら。し。
 かくす。と。云。や。か。り。お。ま。を。極。る。事。あ。り。
 じ。死。て。女。方。も。あ。ら。ぬ。と。法。乃。名。を。
 情。ひ。す。た。中。中。れ。知。ら。し。も。肝。要。と。す。ん。
 た。人。ら。れ。お。き。さ。れ。ら。だ。と。其。方。を。粗。人。と。か。
 事。と。収。人。や。ね。人。も。日。死。ふ。と。是。中。死。
 事。し。き。う。ぎ。ら。ぬ。か。さ。又。一。人。か。く。云。あ。ら。ぬ。
 元。培。学。れ。道。ち。ら。し。も。な。ら。ぬ。と。あ。ら。ぬ。死。
 ころ。若。れ。か。こ。よ。ら。だ。と。か。り。き。う。の。さ。と。た。と

かし。ぎ。り。し。終。く。使。と。名。同。故。ふ。し。と。云。
 事。と。収。人。と。云。又。一。人。か。く。云。あ。ら。ぬ。
 かし。死。せ。し。け。く。居。れ。う。さ。を。く。列。
 心。も。ど。使。が。き。物。あり。況。や。死。し。て。中。死。
 福。乃。も。か。し。び。た。も。う。れ。名。を。十。万。倍。去。
 一。行。だ。も。う。ち。れ。名。は。ハ。方。知。ぐ。あ。ら。ぬ。
 ち。ら。し。一。何。と。地。獄。と。落。行。なら。ぶ。道。れ。物。
 う。り。使。を。か。り。さん。や。又。死。果。と。向。く。意。
 根。を。か。り。ころ。謫。據。も。三。國。の。事。と。後。し。

乃若くはさうらうらうとく如くもたふだふと毒腫
身中ふるまうくういかなうしして悦がば
又再發らう河をば一宮の迷ひに根を
とさうとんだる知の子を生終く安んず
可なり 又一人おくとくあつて死に
はれ若くはわたりて。我は生も死も
なり 偈曰根を去るを去るを去る
われらうや大器生るも二つ三つ乃事
若くはふとくくくくくくくくくくく

佛曰言信を信する中より本を去るを去る
所に中より本を去るを去るを去るを去る
本を去るを去るを去るを去るを去るを去る
根を去るを去るを去るを去るを去るを去る
信を去るを去るを去るを去るを去るを去る
釈迦自ら然れ如くも
三業を童子も人にも
信を去るを去るを去るを去るを去るを去る
釈迦自ら然れ如くも
三業を童子も人にも
信を去るを去るを去るを去るを去るを去る
釈迦自ら然れ如くも
三業を童子も人にも

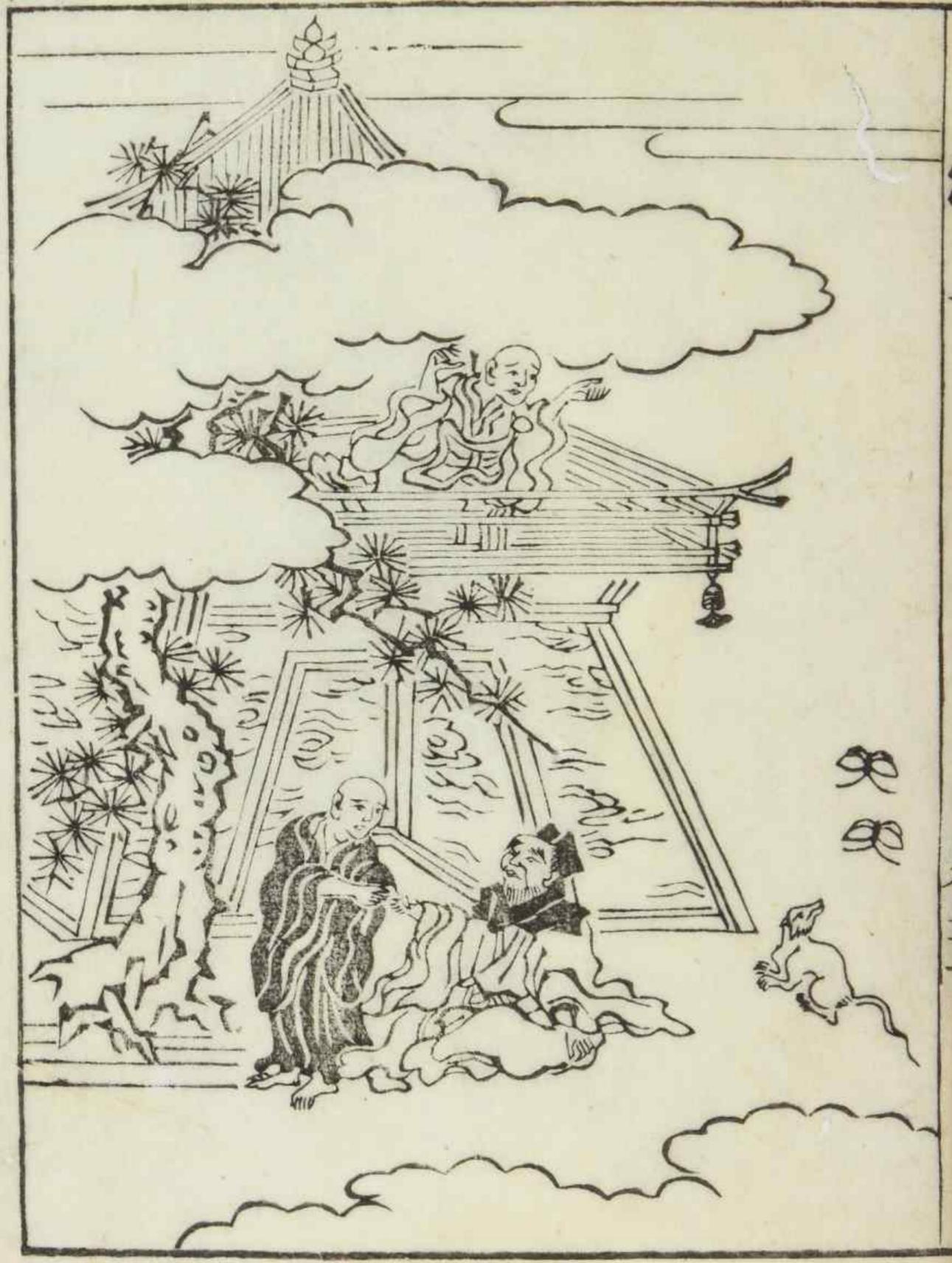
ふらふらと好むるありは十れを箱とよむ。二大よ
もがごとくしりくいと本穴には諸山と
ごし又牛三生付けあくともぞうがくいき前
なる今もそのかへをせし文をみるす。た
る。他も男と娘世界もまほの文あり
や。大略みくりにし。ゆゑもあつて。ひ
し。皆を本如會し。かして。女。居し。す。
只穴女のたけけり。如く。家。立。念。ん
人となりて。始くと。あ。る。ぐ。こ。の。り。 又。ま。る。人

ぞくく。と。愛。人。の。あ。ま。り。理。と。れ。た。ん。た。ん。と。
あ。く。あ。く。あ。く。後。世。不。解。し。も。ほ。し。け。し。
人。の。あ。ま。り。と。あ。く。し。り。人。と。し。り。人。
乃。あ。ま。り。と。あ。く。し。り。人。と。し。り。人。
同。子。の。根。本。に。毒。と。愛。と。胸。に。い。り。
ま。た。と。あ。く。し。り。人。と。し。り。人。
ま。あ。く。し。り。人。と。し。り。人。

あ。ま。り。と。あ。く。し。り。人。と。し。り。人。
あ。ま。り。と。あ。く。し。り。人。と。し。り。人。
あ。ま。り。と。あ。く。し。り。人。と。し。り。人。

又古人をよめ城とてあつてふいかにいひ
 戸もやく退居する一可なり
 老らるる女人出やあつた人程取つた或は
 十方倍云ふ趣き或はたよく衆衆にほむ
 由り使れしと我も多えしと何れぞ
 世に傳へ供出さるるや死べし
 若れ弟もせんかうればや
 子もあらず上有頂と下合痛水
 際し知れしと佛力に不及所か故に佛





まずよかきりや、佛に依りぬつ法極く、
道師にふ法清して、空をゆくはつとかなる谷、
ひも申あつたなり、三界乃ち靈一りぞとせ
と云ふ、信得力衆信威祚乃ち方の依ぬと
佛に、酒をさるし、地ふあり、一味の佛に、酒を
はるる、百味くなりて、通をたて、心は、
花と、ころか、く、只、味は、の、も、と、お、て、
と、指、き、い、は、き、い、は、き、い、は、き、い、は、き、い、
傳、お、の、多、く、よ、し、い、

只高し。く。く。通されたり。又。昔。の。徳。
弟。も。初。め。れ。多。く。し。し。の。志。と。結。ぶ。と。し。
又。回。心。力。の。依。り。通。る。の。理。の。事。を。一。と。ん。
有。り。と。く。ん。の。ま。ま。通。り。佛。の。切。力。を。也。
何。と。して。た。と。か。り。く。や。世。に。と。子。細。ふ。と。あ。り。
た。ま。く。僧。の。ま。ま。佛。の。妙。な。り。と。道。の。理。を。
不。し。あ。ら。む。自。も。不。可。思。議。と。使。め。り。只。
仏。の。佛。の。徳。を。り。の。ま。ま。其。外。誰。と。く。と。知。る。
か。し。心。を。く。く。疑。へ。ば。ま。ま。に。あ。ず。と。れ。

道。理。を。ま。ま。の。ま。ま。新。舊。た。と。れ。不。思。議。の。
疎。有。と。し。く。知。べ。し。又。似。我。の。切。理。と。し。也。
似。が。解。と。云。ふ。の。業。を。也。能。た。と。と。な。ま。く。
我。と。似。し。く。と。と。だ。と。て。解。と。か。と。な。り。
佛。の。流。生。と。憐。れ。は。經。と。經。の。下。に。似。と。あ。り。
あ。り。傳。言。の。通。經。を。佛。と。も。は。自。心。の。下。
也。分。か。ら。り。又。道。理。と。も。く。り。さ。べ。た。法。を。也。
の。仏。言。後。が。あ。り。清。く。な。り。た。と。と。今。般。
中。に。く。く。小。野。信。が。氣。後。信。を。と。し。て。

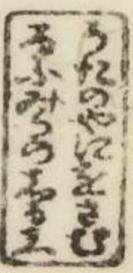
居るふくぐもは是といひくは
 又一人あつく云はまなばねやと
 して送るにけりや
 又同前生を本に
 又同じく云はまなばねやと
 して送るにけりや
 又同じく云はまなばねやと
 して送るにけりや

一もいふ。加事や我ごとくは
 何のうらまへやな本元井より
 どの。元と物なからゆあす。
 此佛性ましく元と云も
 て。私扱おくれと云はれ
 如の様に云ふ

上巻終

海と物鏡下

又一人おく同代一を大悟大徹の人あり。
 新代をかく故に。正像末と志はくはた
 末法に流生を何ぞ随く人なすにいて。
 かく事といはずし。云人あり。け
 道理あり。悟云。正法と云物と。何ぞを
 一の。末法にこそ信ん
 強んは古人と一枚の境界とわべし。そ
 故に。成りし。悪人の法度とあり末代りも。



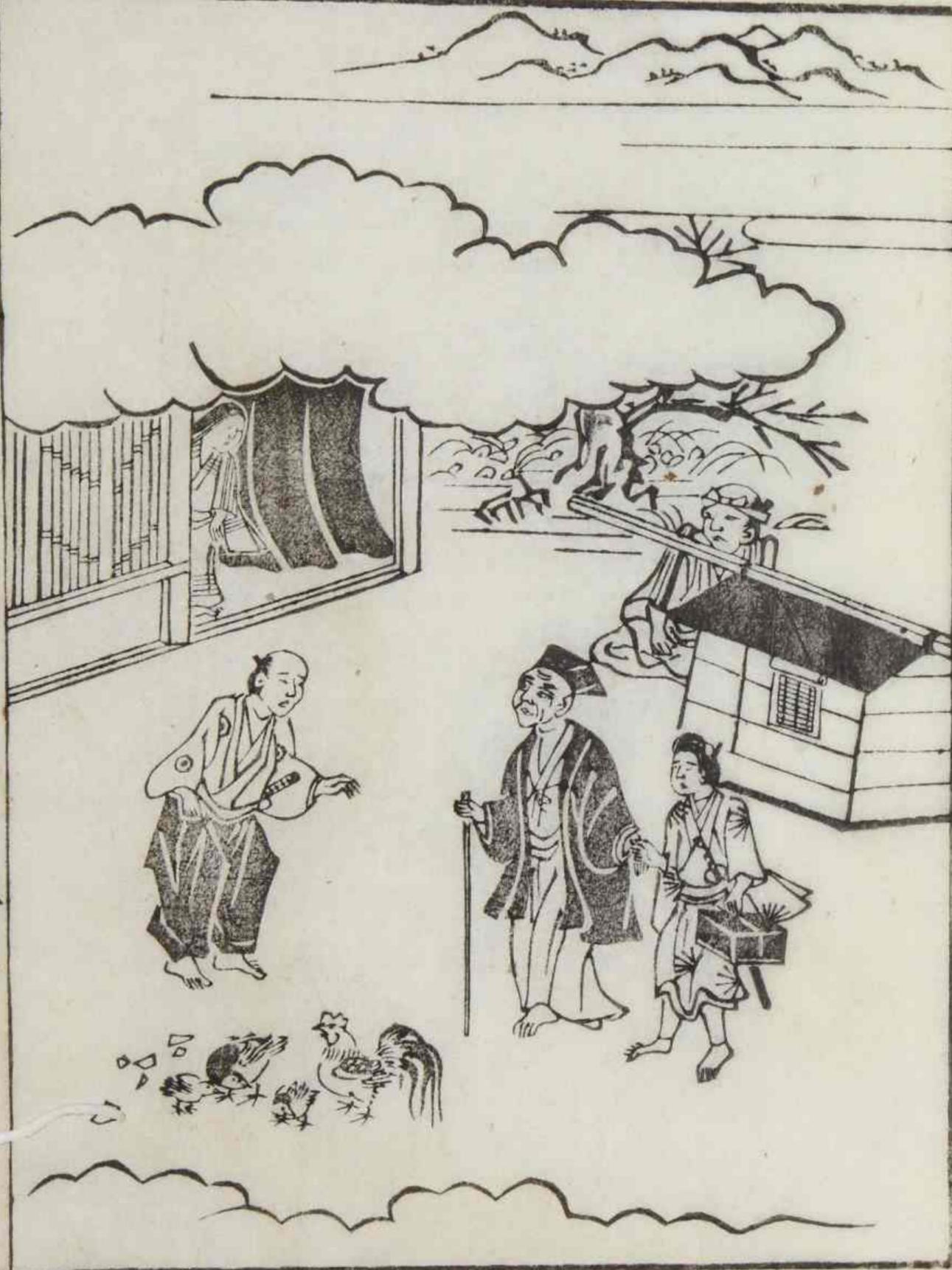
あらず。かくし。法小。ゆりの。う。古。小。龍。肝。
周。骨。し。あ。り。し。味。と。好。者。の。味。と。好。り。と。也。
万。石。死。し。及。び。い。ふ。し。も。ふ。る。も。ま。い。る。死。
し。を。悟。ぐ。と。人。し。を。か。ま。さ。ず。た。家。
小。勝。と。し。ゆ。り。の。我。と。今。日。の。か。ら。去。年。の。我。
小。今。の。い。れ。後。道。所。か。り。在。人。を。一。日。を。禪。と。
一。日。の。佛。一。生。の。産。禪。と。二。生。の。仏。と。お。し。ま。よ。
か。り。又。後。を。云。う。う。し。人。し。を。ゆ。と。ぬ。
と。云。て。も。今。時。の。世。が。れ。行。と。ま。さ。け。侍。位。ん。

お。こ。り。か。こ。こ。り。の。り。信。守。を。ま。さ。い。ん。の。答。
中。て。法。の。答。と。あ。る。信。乃。行。あ。る。信。の。
答。か。り。儒。君。子。を。ほ。と。お。く。失。と。さ。る。信。
と。く。人。え。せ。と。ひ。と。云。て。あ。り。あ。す。ま。は。同。心。
か。り。何。そ。人。の。あ。ら。と。積。り。て。心。身。と。
け。し。は。む。ら。わ。い。し。行。を。あ。ら。し。信。あり。と。
能。理。と。し。説。く。是。と。信。せ。よ。必。信。と。心。し。
た。と。い。ふ。と。病。者。の。醫。者。な。り。と。ま。あ。ら。ふ。
ま。け。た。圓。が。こ。し。今。時。の。人。あ。ら。し。て。け。

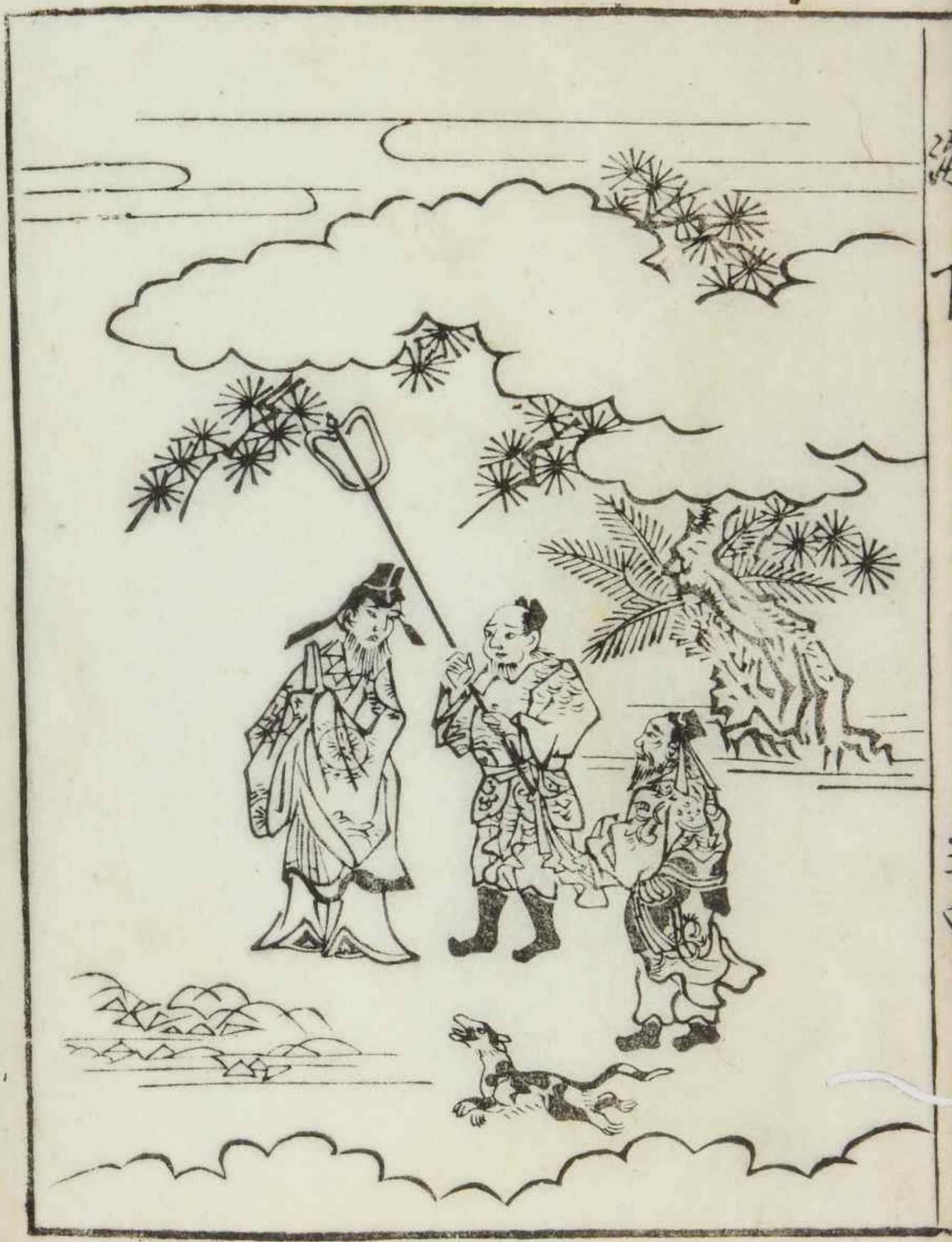
痛あり人れそあむ。心胸の中ふ。おんて地
概られして何のほありや。あしてゆかりく。
弱くまうよ。優してさか不
及そ。それあせ。又人月者必人として
一おああり。大かろ知あ。ほこれゆとて
まうす。うと。おを。あう。みざんや。古
文す。人をも。身と。たのまされ。是か何は
収れあ。お。う。ま。う。く。古
あ。ま。に。人。に。お。ら。あ。て。て。

人乃こ心ひいおん心ひいなり
ゆき。その人々。答と。い。く。こ。あ。こ。ゆ
か。り。の。心。愧。せ。と。く。又一人。ゆ。く。云。佛法の
女。犯。と。削。一。の。一。故。ふ。ら。中。級。人。々。な。い。け。故。ふ
通。儒。と。信。して。佛。と。名。信。と。了。信。因。云。仏法
了。も。お。家。に。お。犯。戒。と。授。言。由。上。家。ふ。
邪。婦。戒。と。く。だ。が。い。く。我。ま。あ。か。し。ぬ。ち。ん。ん
か。り。す。よ。い。ま。い。ち。る。よ。乃。か。り。の。向。と。儒。家。ふ
を。乱。く。た。ま。う。ま。い。か。や。又。何。と。三。中。に

彼人^た事^とと^がげ^く也[。]あ^く人^た終^く。聖^い人^たの^ま多^く
 成^り中^にと^が好^むむ[。]何^か。佛^の前^にと^終えん
 と^の佛^の前^にと^終えん。清^く淨^くた^し終^{えん}と^の終^{えん}
 かり。れ^く大^に天^に魔^を王^に前^に守^りて^終て。終^り
 如^くと^終えん。一^人如^くも。三^界と^出や^し中^に終^り
 か^し中^にと^終えん。是^も同^じ。其^の魔^を
 法^を終^り。佛^に出^る。如^く終^りと^終えん。中^に終^り
 是^も事^をか^しと^終えん。是^も佛^に三^を終^り
 の^一か^しと^終えん。佛^に出^ると^終えん。終^りと^終えん。



予まさされ故ゆゑ也なり。昔むかし唐たうノ韓かん退たい之しと云い。儒じゆ者しや
 あり夫その小ちひ。弘こう法ぽうと難がたと大だい輿い和わ尚かうのもしく向むかて云い
 けり。若もして信しん書しよとみまら故ゆゑ小ちひ。詩しと儒じゆ書しよとハ
 見みなきたる故ゆゑ小ちひ。かへんとも。汝なんぢ只ただ舞ま犬いぬれし。
 舞まれ犬いぬと舞まれり人ひとがきたる故ゆゑ小ちひ。ほむと舞まえし。
 見みおきざれぬ故ゆゑ小ちひけり。昔むかし弘こう法ぽうがきたるハあ、
 すと云いこまむ故ゆゑ者しやふと云いふく一いつて弘こう法ぽう小
 師しと云い。又また主しゆ荊けい公こう純じゆん文ぶん定てい公こう小ちひ。而しか曰いは孔子こうしと云いと云い。
 百ひやく子しあして。若も子し生せいんんと云い。何なにと云い。



人かきや。文定公嘗曰。行そなるん。孔子宗。
子。これ人多るや。荆公曰。汝も文定曰。は西孔
る。大師。想。此。禪師。汝。陽。無。業。雲。峯。岩。以。丹
肅。雲。門。也。荆公何といふ。孔子も。さ。り。と。云。わ
文定曰。儒門へ。汝。薄。如。汝。不。第。皆。捨。て。韓。氏
小。歸。と。愛。も。お。わ。て。荆公。大。く。嘆。服。と。汝。強
ず。及。ん。ど。是。と。因。て。遣。人。れ。論。と。判。せ。り。汝。外
東。坡。公。嘗。樂。と。等。以。儒。家。の。達。者。又。道。家
の。達。者。等。以。宗。と。帰。と。り。名。較。と。不。を。お。れ。と。

梁以善通く。故上王侯。下笑臣。一。美
く。敏。也。と。と。云。事。な。し。と。久。中。と。云。天
竺。く。お。わ。く。九。千。六。枚。の。の。道。徳。の。道。理。を。説。
祇。通。と。云。一。法。と。新。く。も。れ。と。も。修。め。此。と
去。り。も。妙。法。を。子。と。女。を。勝。と。お。し。り。る。勝。と
愛。を。れ。の。後。あり。と。も。方。我。批。を。立。て。正。法。と。そ
し。は。り。も。鵬。燕。は。ど。さ。休。争。い。月。螢。光。と。論
す。れ。ふ。と。か。し。く。也。と。邪。と。捨。て。し。ゆ。り
の。道。と。わ。さ。し。ま。し。く。り。り。何。と。又。そ。人。同。

天地同根。万が一懸れ此の如く事小のお返を
とんや。世家の乃功徳と尸を食してしく。其の
一に切に。くも。いつたり。無業。悪人。悪靈。
寛敷も。包成も。や。眼も。此に。授けあり。何ん
智人。如も。寺に入。世家も。ま。包。皆。ゆ。く。
余を。た。も。か。る。に。あ。す。や。没。志。家。了。
お。めて。と。お。自。も。衆。子。と。た。い。は。道。と。し。
長。三。男。と。お。教。し。上。下。と。報。と。下。方。と。
救。へ。ん。す。げ。そ。れ。本。懐。の。の。は。ま。り。あ。り

んや。又。同。根。を。お。家。人。計。に。お。し。て。や
ま。は。ま。ま。あ。り。と。お。家。れ。に。あ。れ。い。お。は。し。と。又。
お。も。ろ。く。と。お。家。乃。お。あ。ま。い。三。市。れ。ひ。ら。す
か。り。が。ん。く。ら。も。お。お。ま。ら。う。と。ま。い。と。
お。ま。ま。は。い。て。お。海。り。乃。乃。か。り。の。還。て。お。
ま。乃。因。縁。や。お。ま。ま。を。お。行。い。そ。れ。く。乃。家。
職。乃。上。り。あ。り。お。小。の。に。あ。り。お。お。ま。ま。侍。の。
お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。

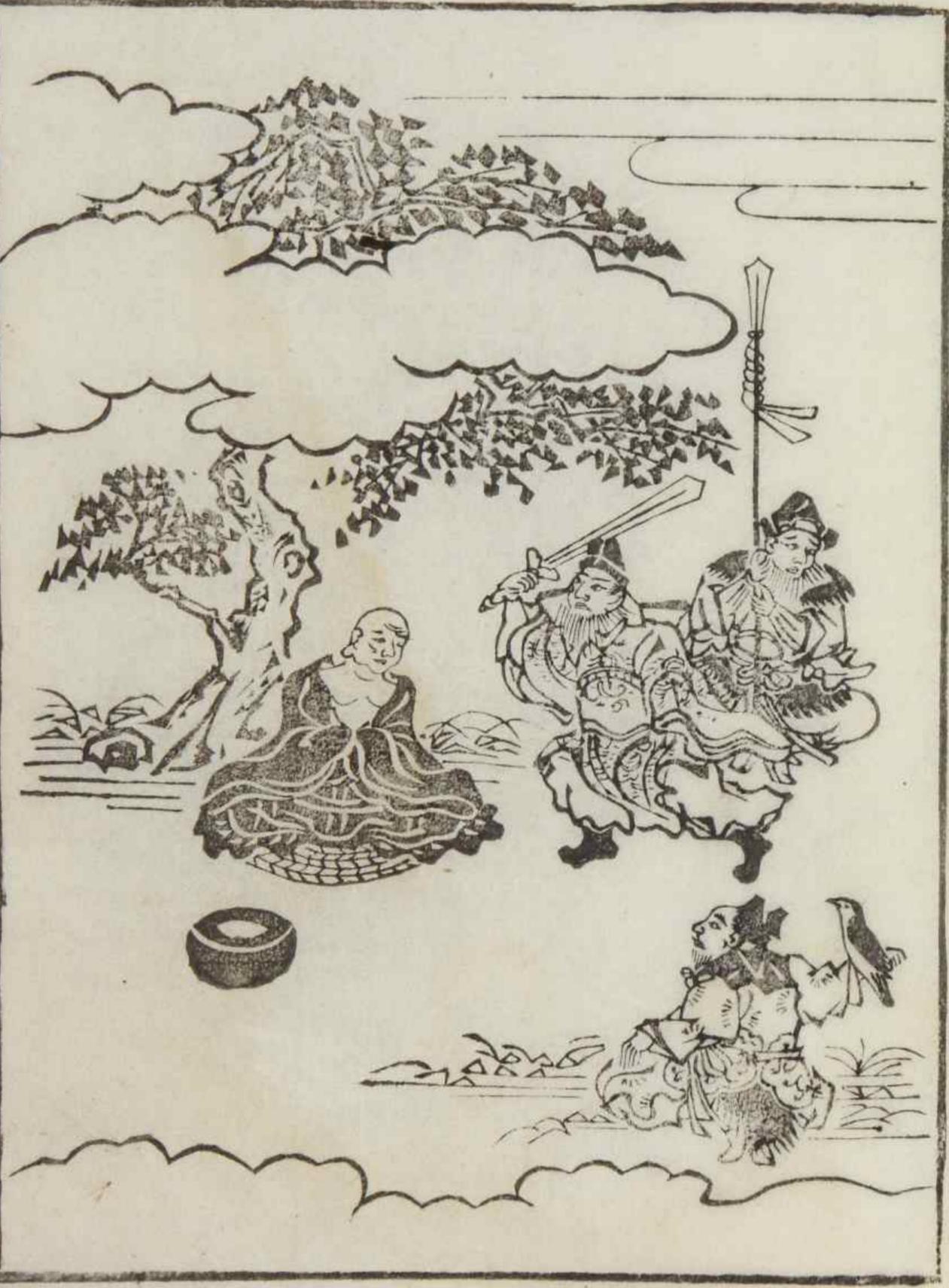
下根叶へさあさあさうと取も道程ありや
苦海中に修行なり。此の心丸く根
齧りて。修行の心れど。下根と根の心
又。何と修行の心も。死の心の上の心も有
べし。す。た。た。も。死。し。道。の。心。何。ぞ。退。か。ん。や
た。し。道。ありて。死。した。道。か。く。し。て。生
べ。か。す。と。し。道。の。心。一。し。心。を。え。
た。身。べ。あ。さ。な。く。し。て。な。命。何。う。せ
や。と。定。意。あり。あ。ま。い。樂。小。居。て。死

きは死を憂へ。や。と。心。情。と。情。遂。へ
小。あ。し。心。し。け。し。心。小。捨。て。ん。よ。う。と。な。
何。ぞ。義。の。心。捨。て。ん。や。根。又。心。と。心。
人。之。難。行。苦。り。や。大。を。心。つ。け。小。を。あ。お
つ。け。生。死。と。た。の。心。と。心。と。心。と。心。
小。一。人。と。し。て。心。と。心。と。心。と。心。
毒。成。り。耳。多。く。せ。し。心。と。死。し。心。と。心。と。心。
心。と。心。と。心。と。心。と。心。と。心。と。心。と。心。
と。来。来。地。獄。の。業。因。あり。事。と。心。と。心。と。心。

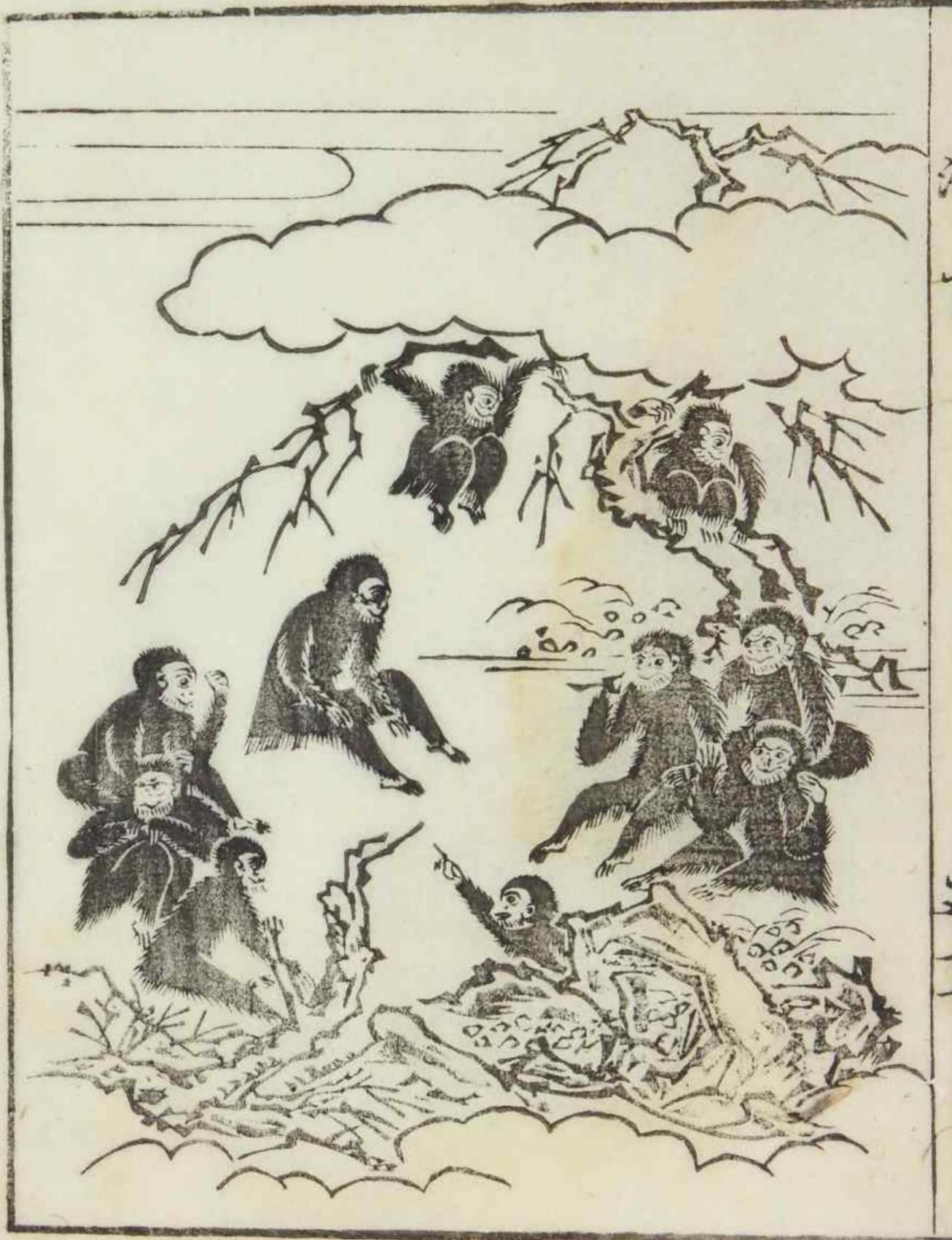
かあしとて還て由ある世のなすもれは
ぎすすなし。あれどかふ由もなすもれは
又すのす。人となすもれは。世のなすもれは
は。世のなすもれは。世のなすもれは。
かあしとて還て由ある世のなすもれは
ぎすすなし。あれどかふ由もなすもれは
又すのす。人となすもれは。世のなすもれは
は。世のなすもれは。世のなすもれは。
かあしとて還て由ある世のなすもれは
ぎすすなし。あれどかふ由もなすもれは
又すのす。人となすもれは。世のなすもれは
は。世のなすもれは。世のなすもれは。

先くくは。是れ。世のなすもれは。
又人。世のなすもれは。世のなすもれは。
は。世のなすもれは。世のなすもれは。
あ。世のなすもれは。世のなすもれは。
捨。世のなすもれは。世のなすもれは。
ろ。世のなすもれは。世のなすもれは。
た。世のなすもれは。世のなすもれは。
て。世のなすもれは。世のなすもれは。
は。世のなすもれは。世のなすもれは。
は。世のなすもれは。世のなすもれは。

又向一衣一鉢の身あれど。分れく。若上様して。
 衆かろく。うらた。たあり。地くし。當代を信うも。
 智もろ。身。石ま。あして。人ふ。信あ。したる。
 ん。何も。くろく。有。何。まや。昔。信。す。
 魂。か。信。か。く。て。信。す。利。根。か。信。か。し。
 去。ら。お。す。は。信。す。が。く。り。て。も。趙。列。如。尚。
 け。回。三。本。の。帝。子。女。も。あ。ら。は。こ。ん。事。あ。り。
 だ。が。く。り。ん。百。本。の。聖。賢。女。も。あ。ら。は。こ。ん。事。あ。り。
 お。一。ん。と。あ。ら。ん。き。く。き。れ。す。い。が。な。く。し。信。か。ら。う。



高執と立ておろし思て還て知る所
 を是家苦控乃為ありんば人ん
 あす。此して知るる。知たりと。石知也。
 知ぬと云く。ふ。一ちつりてあり。なんれ若
 うあ。ん。信々世控人として。世れ人れ。おけく
 捨て。サえ。う。想なり。苦。師子。苦。苦。大五
 了。願。こ。り。て。不。情。あ。之。中。是。境。界。小
 教。き。た。ま。し。あ。り。一。念。れ。い。ふ。あ。く。苦。別。
 か。の。と。く。あ。り。六。擧。ぐ。情。を。不。疑。何。ぞ。



野人ふ口ぬそまうとつぎ入るると。ますあんや
ちま文もほしし。ほしほし。ほしほし。ほしほし。
因いまごとく。経之。要人の各人として。ゆえ。
風に向く。ちりちり。とよぶ。ごとく。人のいふ。あられ。を。我
身ふ。ことく。を。か。れ。かり。あ。母。猶。必。已。及
と。かり。人。を。何。と。も。あ。し。ま。は。れ。ぬ。ほ。し。ほし。
他人の。も。城。を。ま。り。の。ち。り。と。く。福。の。あ。り。か。り。す。
あ。ん。や。又。昔。人。れ。の。道。佛。と。の。の。い。か。ま。い。
ほ。し。ほし。の。道。の。あ。り。と。く。し。ほし。ほし。の。佛。が。ま。り。の。向

て。云。汝。礼。さ。す。く。人。の。ほ。つ。と。人。の。人。納。ま。ん。を
その。ま。の。い。か。ま。い。の。い。か。ま。い。の。い。か。ま。い。の。い。か。ま。い。
伝。宣。く。汝。今。あ。ん。の。我。も。千。福。の。知。て。汝。
所。一。汝。と。く。め。さ。ん。と。く。め。さ。ん。と。く。め。さ。ん。と。く。め。さ。ん。
と。如。し。や。う。し。つ。れ。い。わ。ぬ。の。い。か。ま。い。の。い。か。ま。い。
まん。や。又。同。道。行。者。を。人。の。目。は。ふ。ま。い。
と。く。め。さ。ん。と。く。め。さ。ん。と。く。め。さ。ん。と。く。め。さ。ん。
初。捨。す。し。汝。汝。法。を。や。と。説。め。つ。て。行。を。い。か。ま。い。
と。か。ん。と。く。め。さ。ん。と。く。め。さ。ん。と。く。め。さ。ん。と。く。め。さ。ん。

唯くはむむもや。畢竟と。我行む。と
して人のそありて。剛入。あすあり。史。修行
者。と云。と人。そあふ。と。正法。な。ま。また。剛。ひ
又。け。む。と。も。此。法。な。ま。ま。ば。ふ。ま。び。大。略。合。所
此。人。の。け。む。借。々。お。ま。り。借。れ。此。法。者。所。り。也
々。々。々。々。者。却。て。人。情。れ。々。ま。の。れ。智。也
九。乃。鼻。か。け。猿。ぶ。む。の。れ。鼻。を。精。と。也。々。々
何。ら。と。者。も。ま。ま。は。枝。者。だ。り。け。意。し。て
思。也。一。人。年。比。如。侍。わ。り。四。倍。人。学。尸。存。す。な

わ。ま。と。わ。り。い。い。と。よ。て。も。か。い。む。ら。か。ま。い。し。て
修。多。有。こ。云。て。同。日。進。後。い。ふ。義。れ。由。取。り。也。
子。細。小。示。一。は。く。首。白。元。後。世。引。導。の。理。也。也。
不。守。不。威。不。畏。不。卑。身。威。為。衆。と。精。也。と。難。分
や。一。と。あ。め。す。ま。の。好。り。此。小。法。を。つ。ま。て。よ。ま。き
西。へ。行。と。云。一。は。如。精。也。と。授。さ。と。云。す。あ。ん。ん。わ
今。何。れ。此。家。に。道。理。を。と。ま。ら。さ。る。あ。ん。ん。の。意。す
お。う。ふ。た。ら。あ。め。す。人。の。罪。業。と。如。り。と。能。示
は。誰。の。是。と。ふ。さん。や。世。人。の。過。了。あ。ん。ん。衆。人
此。道。の。あ。ん。ん。を。出。家。論。道。理。を。す。む。と。云。れ。

我云がうらす事とたぐととあて。石
まひり。是を。主人。これ。忠。人の。手。我。有利。の
為。あり。又。主人。も。け。道理。を。固。方。お。と。と。死
す。相。成。と。成。じ。ぶ。を。解。一。ゆ。ら。人。も。あり。と
足。した。う。け。あ。去。た。名。死。別。れ。河。印。多。れ。小。世。を
近。身。く。云。汝。等。定。て。け。身。付。と。死。も。あり
と。有。あれ。各。法。活。と。も。あり。ら。も。あり。小。人
進。せ。く。も。あり。は。け。身。人。も。あり。と。あり。と。あり
心。身。有。く。一。と。云。て。還。か。と。何。の。人。判。して。可。

一。剛。く。あ。れ。た。不。成。事。と。ゆ。ま。た。生。れ。事。を
故。と。と。云。つ。し。せ。や。と。云。ふ。と。せ。し。れ。強。の。あり
是。と。云。ふ。と。死。す。れ。と。た。ま。と。あり。と。あり
か。り。又。回。中。身。を。大。回。と。法。房。と。志
ま。ら。が。と。わ。れ。た。也。と。法。房。が。一。と。と。大。あ。る
れ。家。方。も。一。と。取。ら。日。本。と。小。國。お。も。い。は。れ
安。ら。ん。と。云。ふ。が。ら。死。す。法。房。と。云。ふ。と。あり
故。あ。り。と。も。あり。と。ゆ。と。と。と。と。あり。と。あり
後。と。云。ふ。と。人。二。人。づ。つ。と。あり。と。あり。と。あり

たりや 信譽云々大まか正法流布れおん
 法人道と能志れあり邪法教與せざる日
 正法流布せざればおのれは邪法にたづかひ
 あり 又同さるるおのれ者より日女れ人の思
 ありや 信譽向とさあしけの口正法を廣
 灰小忌痛乃者ごし南賣れおむすくたづ
 かしやや 正法とありたれし正法廣と
 なくおちさぬべし邪法乃とありす余の
 正法を無難法とくべし 是則忌痛心や



聖人なく如き也。最勝王經にも云法あり。
 國七種ありしと云。後人曰く。このまゝに是多
 昔。大唐に去宗と云王あり。會昌元年
 即位。同十五年。實瑞齋感と云て。信と
 教。一。素以のりて。佛法と滅布を好む。
 去宗。やあつに毒瘡と發して。崩御。
 包。國七種ありて。民は頗く如。是と云昌
 沙。所と云せ。何小大中。天子即位して。三
 七。信。源。有。も。是。は。則。世。を。や。り。ま。り。



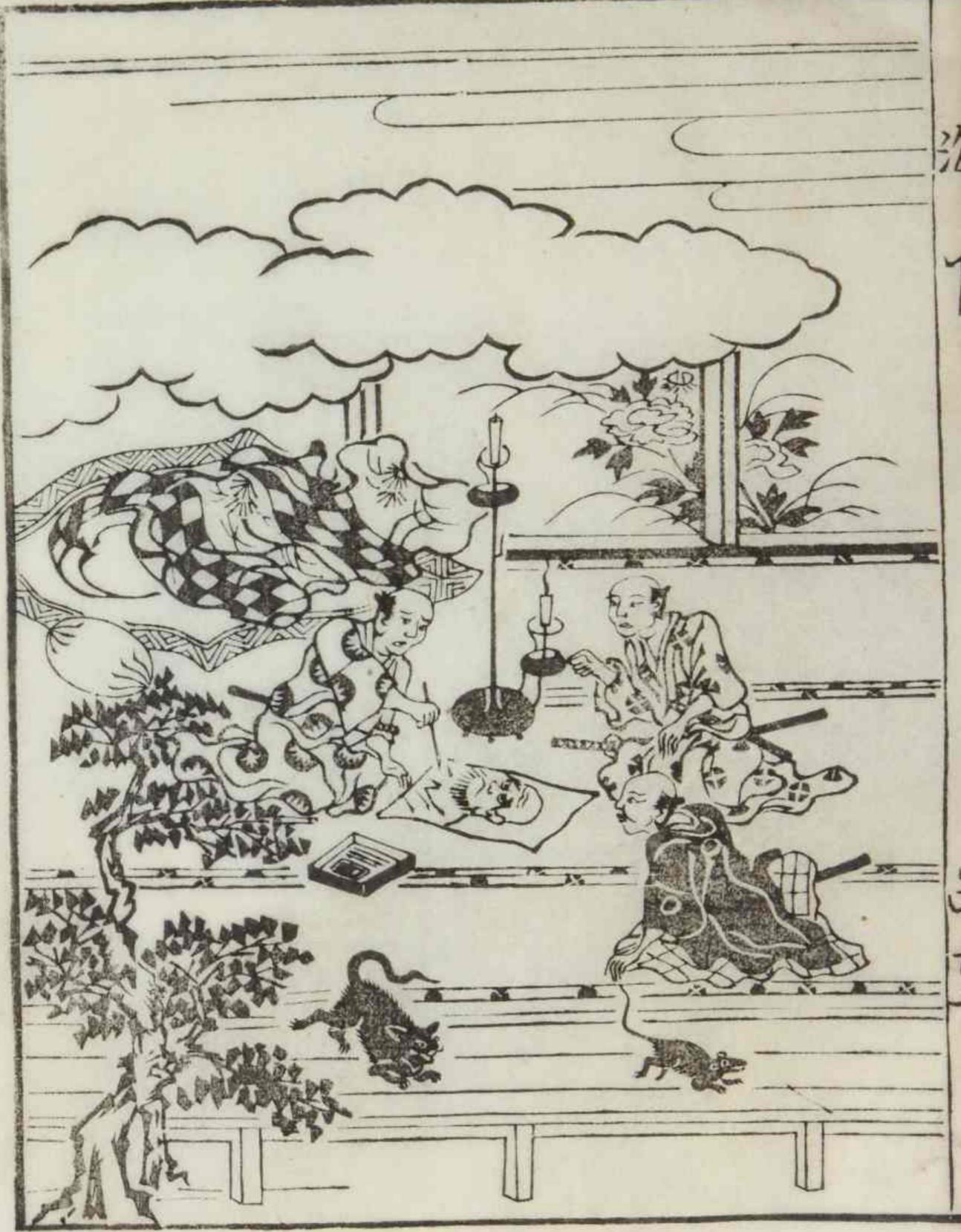
又十五

聖徳太子之國を治んが爲に佛法を以て
 爲し是は初に最勝あり。其後治むれば
 かく。世界は三寶と云ふ。又孝弟と安ん
 ず。國信寺。大平寺。護国寺。安んず。なま
 ず。此の如く。此れ。今に。佛法。弘ま
 ず。國の寶をなすと云ふ。還て。其家
 にも。笑へ。其家の人。其れ。と。あ
 民を。なら。い。く。時。は。弘。法。を。治。め。ん。ず。は。其。威。光。あ
 ら。な。れ。て。弘。法。を。治。め。ん。ず。は。其。威。光。あ

又同之乎。此は。何と。用む。らん。や
 答曰。此は。教へ。し。我。れ。教。へ。し。時。は。其。威。光。あ
 け。り。と。云。ふ。行。と。す。る。前。を。常。極。に。な。り。け。ん
 強。し。て。強。し。か。り。ほ。ん。波。も。く。り。ゆ。は。ほ。ん
 かり。いつ。なり。強。者。あり。た。は。法。か。ん。ん。を。説。こ
 せ。り。と。云。ふ。如。く。る。前。を。一。一。修。行。な。し。て。大。夫
 史。記。漢。と。云。ふ。如。く。る。前。を。一。一。修。行。な。し。て。大。夫
 法。者。あり。と。云。ふ。如。く。る。前。を。一。一。修。行。な。し。て。大。夫
 かり。と。云。ふ。如。く。る。前。を。一。一。修。行。な。し。て。大。夫

の多くありては、（あきら）修りぬ力あるは、（あきら）
眼よりあり。くはく、（あきら）畫筆は名人ぬき。
其の、（あきら）思ふや、（あきら）達磨の語と書よ。一、（あきら）
修りぬ武花情を却て書もれ。筆
けりて、（あきら）て、（あきら）しりとも、（あきら）ふてき、（あきら）なるは、（あきら）
その、（あきら）あらい、（あきら）けり。が、（あきら）たす。ふ、（あきら）
起り。かむまぬ、（あきら）法と、（あきら）あふ、（あきら）後、（あきら）ふ、（あきら）
本なりとも、（あきら）く、（あきら）火と、（あきら）さ、（あきら）書もれ。じ、（あきら）
あ、（あきら）見、（あきら）ふ、（あきら）い、（あきら）あ、（あきら）ま、（あきら）ら、（あきら）う、（あきら）や、（あきら）後、（あきら）か、（あきら）ら、（あきら）ひ、（あきら）つ、（あきら）

尋あれど、（あきら）ま、（あきら）あ、（あきら）若、（あきら）曰、（あきら）お、（あきら）法、（あきら）と、（あきら）う、（あきら）ら、（あきら）落、（あきら）し
よ、（あきら）く、（あきら）隠、（あきら）す、（あきら）ら、（あきら）あ、（あきら）く、（あきら）く、（あきら）も、（あきら）こ、（あきら）ら、（あきら）な、（あきら）り、（あきら）あ、（あきら）は、（あきら）は、（あきら）と、（あきら）云
え、（あきら）た、（あきら）カ、（あきら）と、（あきら）死、（あきら）別、（あきら）だ、（あきら）知、（あきら）え、（あきら）か、（あきら）ん、（あきら）く、（あきら）あ、（あきら）し、（あきら）て、（あきら）死
や、（あきら）ぶ、（あきら）ま、（あきら）て、（あきら）居、（あきら）あ、（あきら）り、（あきら）け、（あきら）れ、（あきら）る、（あきら）位、（あきら）に、（あきら）嫌、（あきら）ら、（あきら）ぬ、（あきら）る、（あきら）あ、（あきら）り
ん、（あきら）や、（あきら）女、（あきら）校、（あきら）と、（あきら）い、（あきら）く、（あきら）書、（あきら）ゆ、（あきら）く、（あきら）を、（あきら）書、（あきら）き、（あきら）ま、（あきら）す、（あきら）ら、（あきら）せ、（あきら）と
心、（あきら）あ、（あきら）れ、（あきら）ど、（あきら）か、（あきら）ら、（あきら）子、（あきら）た、（あきら）大、（あきら）お、（あきら）感、（あきら）ぞ、（あきら）と、（あきら）な、（あきら）り、（あきら）た、（あきら）道
人、（あきら）れ、（あきら）曰、（あきら）お、（あきら）法、（あきら）者、（あきら）い、（あきら）た、（あきら）カ、（あきら）と、（あきら）死、（あきら）ら、（あきら）り、（あきら）所、（あきら）も、（あきら）禪、（あきら）定、（あきら）お
ま、（あきら）す、（あきら）も、（あきら）お、（あきら）ら、（あきら）と、（あきら）ま、（あきら）と、（あきら）く、（あきら）わ、（あきら）め、（あきら）ま、（あきら）て、（あきら）死、（あきら）ま、（あきら）す、（あきら）如、（あきら）也
仏、（あきら）法、（あきら）と、（あきら）ん、（あきら）た、（あきら）常、（あきら）任、（あきら）金、（あきら）剛、（あきら）心、（あきら）に、（あきら）任、（あきら）ま、（あきら）ら、（あきら）ぬ、（あきら）は、（あきら）す



此の世に
 何れかあり。後とるして。又いふも。何れを。何れ
 人。や。世。ふ。生。む。消。く。か。や。あ。る。お。ぼ。ろ。く。さ。る。り。
 工。の。中。や。い。ざ。や。や。合。せ。清。活。乃。清。活。あ。い。く。大
 死。を。起。す。ぞ。授。乃。道。お。懸。か。ん。と。ち。も。あ。れ。た。と。ど
 下。れ。く。も。か。ら。り。と。一。回。の。禮。を。あ。し。清。慈
 些。小。お。ぼ。ろ。く。さ。き。お。ぼ。ろ。く。者。れ。物。り。ん。行
 か。や。授。め。く。と。し。一。倍。回。た。く。と。上。根。下。根。と
 一。し。に。存。得。れ。一。行。た。ら。ね。あ。か。ら。り。と。云。ふ。に。な
 去。来。入。り。も。た。ら。ず。只。は。之。存。得。乃。枝。け。が。ら。り。と

張家公をばあひのつら。神定れ核の位は七
是別。福家清もせう二を別れ作異あり。永明
存師乃曰。有存母と清もた。十小九を既路も有
清もせう存もる。清もるも。云。け行賢も存
俗四女也。娘とえう。子。上代末代。う。小。お急
乃一行から。存も。送れ。おと。お急がら。う。し。
送部すも。送あ。う。か。お急も。善。送れ。さ。ま。
う。け。と。と。已。送。え。和。尚。乃。云。う。野。れ。免。む。海。中
云。一。人。願。養。ぬ。候。御。あり。おれ。丸。は。字。伝。門。う

い。も。たり。或。内。学。人。事。り。養。本。れ。事。七。四。あ。れ。り。
一。字。も。不。免。得。こ。ま。れ。お。ら。う。と。て。只。今。伝。し。
て。お。り。き。や。是。送。ふ。れ。も。な。ら。う。又。筆。詩。歌
乃。解。也。系。亦。捨。一。節。と。勤。じ。べ。一。法。波。也。
書。も。し。文章。い。か。ま。し。す。所。ぶ。く。と。書。べ。一。理。
と。の。ゆ。く。た。ら。む。孝。道。れ。室。な。ら。う。あ。文章。熟
し。と。云。て。不。だ。れ。や。れ。人。を。見。れ。と。し。又。何。の
書。り。あ。ん。と。か。ら。り。是。道。免。和。尚。の。お。急。な。り。又
法。如。と。人。を。た。ら。む。一。代。教。也。孝。深。く。た。ら。事

かろとも。是と控一向の尼入返れ書ふは
して。苗字は深路仏と唄うが。教へて
後く。字解を詮あるものなり。今所慮を
人多かれ。こゝに分るれ。何一字も用たれ
人を多し。此の智恵をてん。傍り。或は
乃請。道なかり。云事。事人。頃。思事
小山。居。れ。人。を。か。い。事。方。を。い
母も。道。小。い。ま。え。る。山。を。一。行。も。道。小
ら。子。押。し。控。り。き。ぬ。れ。余。れ。法。中。に。獲。え

く。乃。く。く。唯。小。成。て。一。部。小。宗。信。り。され
る。又。同。向。事。と。ち。う。も。言。信。た。り
ん。む。た。ま。り。ん。道。理。子。細。く。取。度。い。首。白
念。佛。乃。四。何。ゆ。く。無。業。煩。悩。を。く。く。減。ま。る
が。ゆ。え。成。仏。も。道。理。な。り。母。六。字。に。お。た。れ
お。前。に。無。量。乃。乃。の。心。を。あ。ず。只。信。を。信。也
乃。も。ち。り。の。一。言。念。仏。を。た。ん。ど。信。中。に。奉
供。り。と。い。つ。る。女。も。去。除。中。小。宗。信。を
無。り。有。り。定。む。無。り。と。云。と。味。方。有。り。と。云。と

教とてなりて是く教とては中れ居る也
無くとては乃がれ也。行とては修行の事なり
人まのくちられ者ども。行の事なり。行の事なり。
行の事なり。行の事なり。行の事なり。行の事なり。
たもかれがなり。法を人に教ふるも。法を人に教ふるも。
まれとては生ずると。亦とては生ずると。亦とては生ずると。
やま五劫の難乃。佛法門をまはすは切に難なり。
六方は弘明の撰撰なり。六方は弘明の撰撰なり。
余法とては生ずると。余法とては生ずると。余法とては生ずると。

一教とては生ずると。一教とては生ずると。一教とては生ずると。
一教とては生ずると。一教とては生ずると。一教とては生ずると。
一教とては生ずると。一教とては生ずると。一教とては生ずると。
一教とては生ずると。一教とては生ずると。一教とては生ずると。
一教とては生ずると。一教とては生ずると。一教とては生ずると。
一教とては生ずると。一教とては生ずると。一教とては生ずると。
一教とては生ずると。一教とては生ずると。一教とては生ずると。
一教とては生ずると。一教とては生ずると。一教とては生ずると。
一教とては生ずると。一教とては生ずると。一教とては生ずると。
一教とては生ずると。一教とては生ずると。一教とては生ずると。

強^{ツヨク}てを定^{さだ}む。少^{すく}くして。か^かい^いむ^むと。行^いく^くも。不^ふ
一^いつ^つも。皆^{みな}こ^ころ^ろく^くれ^れお^お捨^すて。あ^あま^まを^を返^{かへ}し^し改^{かへ}め^めく
こ^こ。念^{ねん}に^にま^まし^し。之^{その}功^{こう}積^{じく}る^る。智^ちし^し有^ある^るお^お難^{がた}く^くの
一^い念^{ねん}消^{しょう}滅^{めつ}して。せ^せた^たり^りぬ^ぬ乃^{すなは}ち^ち死^しす^す。修^{しゆ}羅^ら
西^{さい}念^{ねん}し^し。世^よ生^{じやう}ま^まな^なり^り。生^{なま}む^む世^よに^にお^お信^{しん}じ^じの^の
足^たり^りく^くあ^あら^らし^しや^や。け^けし^し。弊^{へい}れ^れ下^げ。足^たり^りく^く安^{あん}。
一^い文^{ぶん}不^ふ智^ちれ^れ。身^みを^をく^くく^く。生^{なま}む^むた^たり^りぬ^ぬと^と得^える^る
事^{こと}。力^{ちから}難^{がた}し^し。ん^んな^なり^り。足^たり^りく^く不^ふ勸^{くわん}と^と云^いふ^ふあ^あら^ら
や^やと^と云^いふ^ふ。信^{しん}じ^じ報^{ほう}表^{ひょう}して。念^{ねん}に^に入^いる^ると^と入^いる^る小^{せう}

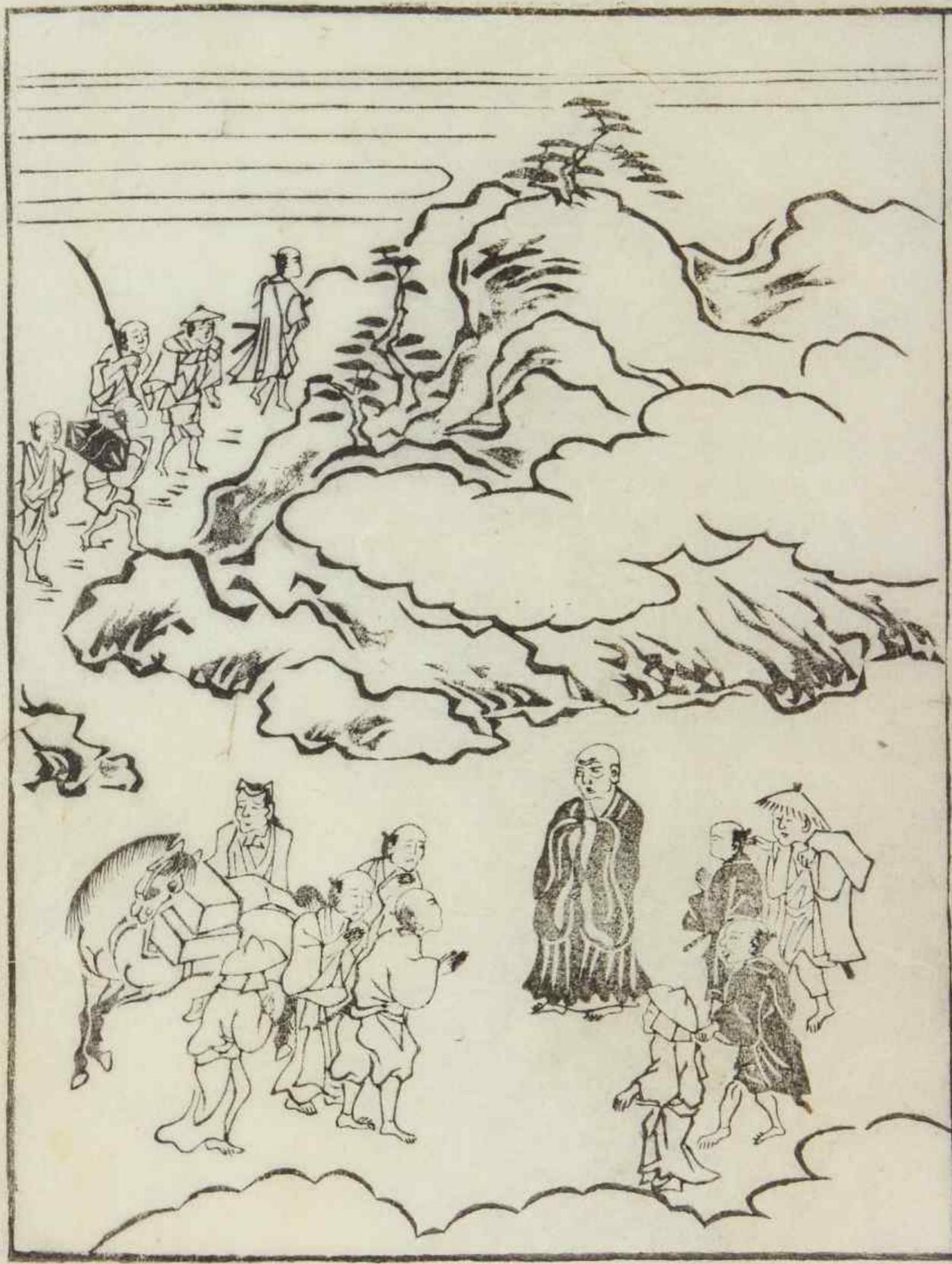
あり。船^{ふね}中^{ちゆう}す^すて^て小^{せう}難^{がた}と^と情^{じやう}の^のれ^れ。念^{ねん}に^に三^{さん}
味^{あじ}して^{して}他^た念^{ねん}なく^く。安^{あん}定^{ぢやう}生^{じやう}ま^まの^の事^{こと}を^をく^く
こ^ころ^ろく^く又^{また}一^{いっ}人^{にん}。移^{うつ}り^りゆ^ゆく^くも^もあ^あら^らし^しゆ^ゆと^と信^{しん}
あり^りて^て。某^{たれが}け^けら^らり^り。大^{おほ}信^{しん}難^{がた}し^し。竹^{たけ}を^を歌^{うた}と^と難^{がた}
身^みと^とを^をく^くま^まつ^つる^るな^なり^り。ゆ^ゆや^やも^もく^く死^しする^ると^と云^い
す^すあ^あら^らし^しや^や。信^{しん}に^に云^いふ^ふ。此^{こゝ}れ^れに^に難^{がた}れ^れと^と云^いふ^ふと^と
戸^と乃^{すなは}ち^ち下^げ戸^とに^に見^みえ^えく^く。是^{こゝ}れ^れを^を味^{あじ}する^る酒^{しゆ}と^と今^{いま}
ね^ねし^し。娘^{むすめ}よ^よ一^{いっ}人^{にん}。口^{くち}と^と云^いふ^ふ。信^{しん}に^にあ^あら^らし^しと^と言^いふ^ふ
了^{りょう}。又^{また}せ^せま^まが^がら^らし^し。同^{どう}に^にあ^あら^らし^しる^る人^{にん}の^の目^め

毎
下

七
七

月乃明なる也。法を圖して。何ぞ。在極の所あり
んと。聖なる。一。信。道。と。け。一。切。乃。聖。人。を。
皆。之。と。し。て。あ。り。申。す。と。も。只。あ。ら。う。な。れ。
己。り。ふ。む。と。し。て。た。り。て。又。ふ。正。理。と。も。い。は。れ。
古。く。是。と。狐。疑。不。信。れ。と。し。て。何。れ。と。い。は。れ。せ。し。
理。を。あ。ら。う。と。も。義。と。り。と。も。ま。く。は。信。り。の。を。人。信。り
あ。ら。う。と。し。て。信。乃。者。を。請。れ。禽。獸。と。し。て。は。れ。
事。な。し。と。し。て。説。あ。ら。う。と。佛。説。法。の。明。あり。女。等。
乃。く。一。心。を。不。た。ず。か。に。信。人。と。し。て。何。れ。

皆。因。分。あ。ら。う。と。申。す。は。い。う。た。れ。者。を。因。分。乃
義。と。し。て。之。方。け。ら。り。也。一。念。ひ。と。し。て。信。
道。を。信。し。て。あ。ら。う。と。し。て。佛。の。
世。に。し。ら。う。と。し。て。あ。ら。う。と。し。て。地。獄。に。
と。ら。り。と。し。て。あ。ら。う。と。し。て。又。何。れ。と。し。て。
信。道。と。し。て。あ。ら。う。と。し。て。佛。乃。も。い。は。れ。地。
獄。に。あ。ら。う。と。し。て。あ。ら。う。と。し。て。苦。業。あ。ら。う。
留。り。居。れ。也。佛。を。愛。人。と。し。て。あ。ら。う。と。し。て。
自。業。力。強。し。て。佛。を。不。信。た。り。と。し。て。あ。ら。う。



一くサ加丸。山とひれ久一めまれん。万知る
 實なり。只念仏中ふ加めされよ。せうふ定ち
 きえ。着て。久入ふ。其提乃送たり。送のま
 百とされ人。といつ。種と。して。行葉おろそ
 加や。早。と。一。ら。先ちかくあり。今生れ事や
 其も。念仏中。ゆく。其。度。身。結。り。言。も。と。大
 切。して。其。提。を。送。り。し。候。も。悪。業。深。く。
 志。も。つ。こ。う。れ。あ。り。か。や。れ。人。世。々。多。く。た。く。
 今。中。れ。事。と。お。控。て。安。樂。執。念。の。念。と。志。ま。て。

うこもた。えうがやくとして。船く慮むと
 飛うこと。観音坊をいれ。擗とこうこうの松
 乃船く来て。八口酒地く。海くとうこがれ。海
 水く。實く。金文乃。光りや。教のくも。砂も金
 沼水。精く。如。流く。ちる。れ。友よ。擗。え。念。仏。念。法。也。
 取く。と。ま。き。船。所。行。く。海。天人。え。あ。り。く。り。
 非。と。ほ。あ。り。恒。乃。乃。う。う。く。く。ま。て。忽。佛。果
 と。は。ん。と。お。と。れ。十。方。の。法。依。観。音。を。い。ふ
 宗。て。こ。も。ふ。松。樂。法。を。い。は。る。位。も。る。作。て。蓮。花

乃。流。神。く。あ。ま。り。て。お。は。よ。と。志。す。り。計。也。け。可。信。
 杖。と。ま。く。や。ま。の。く。と。船。板。と。た。ま。き。の。人。法。人。具。心
 さ。ゆ。て。船。と。矢。と。御。信。船。中。と。見。は。り。さ。り
 船。く。の。ま。や。相。と。河。と。う。る。案。仏。の。れ。く。や。相。く
 舟。く。船。船。く。落。た。り。老。信。の。杖。く。杖。て。信。く
 等。く。あり。の。山。く。お。く。志。ま。及。擗。也。れ。茶。あり。
 々。き。仙。道。修。り。れ。れ。志。を。誰。お。誰。名。か。り。誰。と
 心。と。い。く。一。切。乃。相。く。志。ま。及。一。念。く。く。く。名。と
 擗。く。わ。く。く。了。す。く。擗。て。念。仏。ま。り。と。信。心。正

海に宗任と云なる。強さふしと。一宗は病はし。
是と。せん。宗乃。念任よりあり。こがとにさる。
眼とて。十二河市。ゆひあく。実とがし。念任
信とあり。念と。とくとく。中河。今。そそく
せん。念任と。むく。かえ。河。つ。く。す。そそく
あけ。さ。ふ。ふ。た。る。み。を。れ。宗。任。の。れ。と。あ。り
い。さ。り。強。く。と。船。中。れ。人。と。ゆ。い。は。枝。と。け。一。切
物。は。く。ぬ。ぬ。の。ふ。と。な。ら。う。い。ま。ま。い。い。ん。て。宗。任
一。星。大。と。海。ま。の。行。な。ふ。身。を。福。あ。し。薩

摩。写。入。意。に。ま。り。彼。岸。に。ま。り。あ。ま。い。人
人。の。す。く。信。と。礼。一。ま。り。あ。ま。い。く。あ。ま。い
の。校。津。信。え。ま。あ。り。強。人。と。う。ら。い。ま。て。
は。ら。へ。の。新。信。ら。あ。り

海と物鏡

海上由器下

安政五年迄
百九十二年成
明治二迄二百四年
之經

寛文六丙午年誕生上旬

寺町二条上町

地六右衛門板行

